

# 決算プレゼンテーション資料

---

2026年3月期 第3四半期



2026年1月30日

## ■ 免責事項

本資料の数値のうち、過去の事実以外の当社グループの計画、方針その他の記載にかかわるものは、本資料の発表日現在において入手可能な情報等に基づいて作成したものであります。しかしながら、当社グループの事業展開上リスクとなる可能性がある要素が複数存在しており、実際の業績等は大きく異なる可能性があります。

また、利息返還請求の動向は、外部環境の変化等に影響を受けやすいことから不確実性が高く、その影響として利息返還損失引当金繰入額を計上する場合があります。

最終の業績はこれらのリスクを含むさまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## ■ 本資料における表記

L・C事業	ローン・クレジットカード事業
MUCG	エム・ユー信用保証
yoy	前年同期比または前期比
ytd	前期末比
(E)	見通し
EB、EASY BUY	EASY BUY Public Company Limited
ACF	ACOM CONSUMER FINANCE CORPORATION
ACM	ACOM (M) SDN. BHD.

## ■ 本資料に関するお問い合わせ

アコム株式会社 広報・IR室

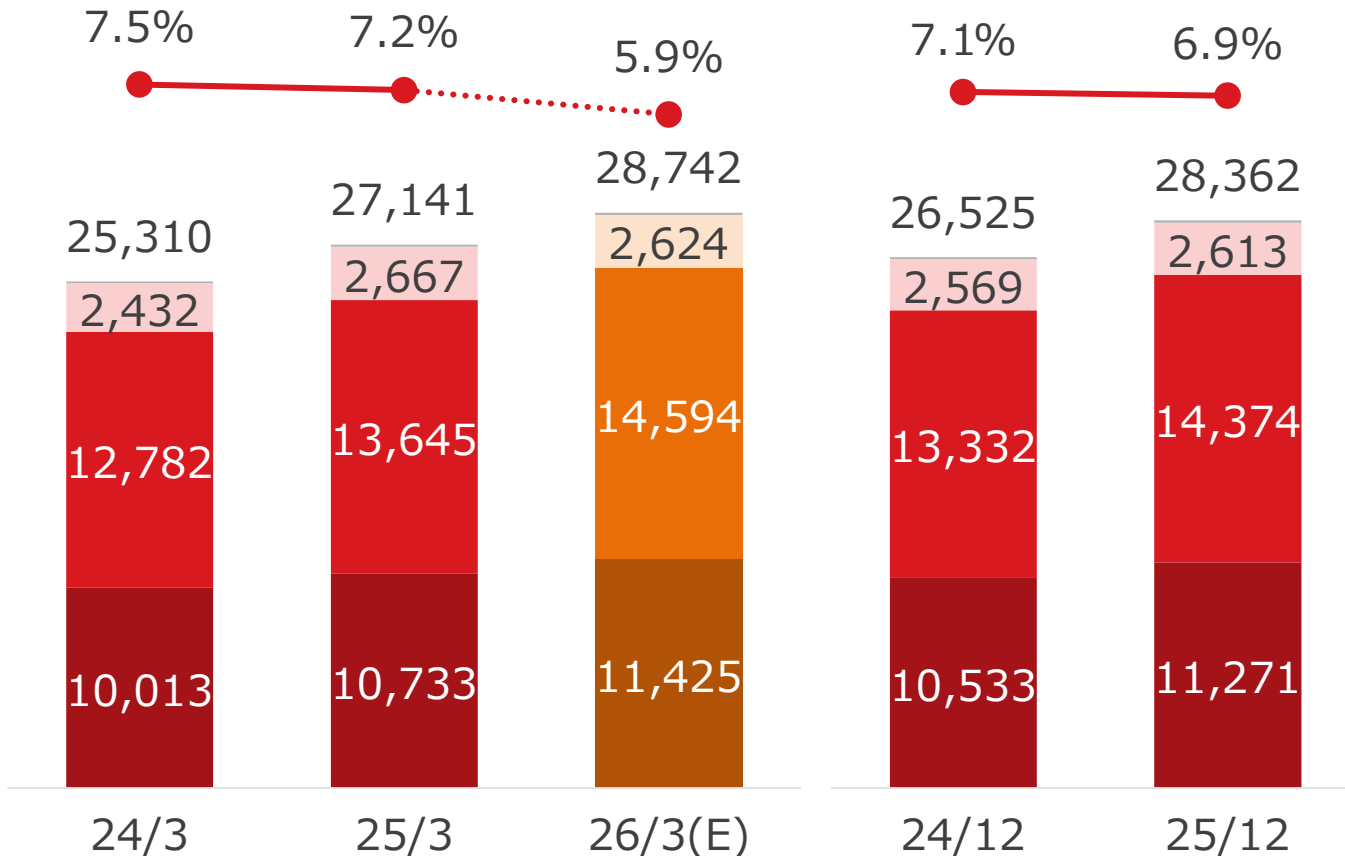
☎ (03)6865-6474

✉ [ir@acom.co.jp](mailto:ir@acom.co.jp)

# 連結決算概要(業容)

- 国内事業の追加利用が好調だったことにより、順調に業容拡大
- 連結営業債権残高は、前年同期比+6.9%の2兆8,362億円

■ L・C事業 
 ■ 信用保証事業 
 ■ 海外金融事業 
 ■ その他 
 ● yoy (億円)



連結  
営業債権残高

**2兆8,362億円**  
(yoy+6.9%)

ローン・クレジット  
カード事業

**1兆1,271億円**  
(yoy+7.0%)

信用保証事業

**1兆4,374億円**  
(yoy+7.8%)

海外金融事業

**2,613億円**  
(yoy+1.7%)



## 連結決算概要(業績)

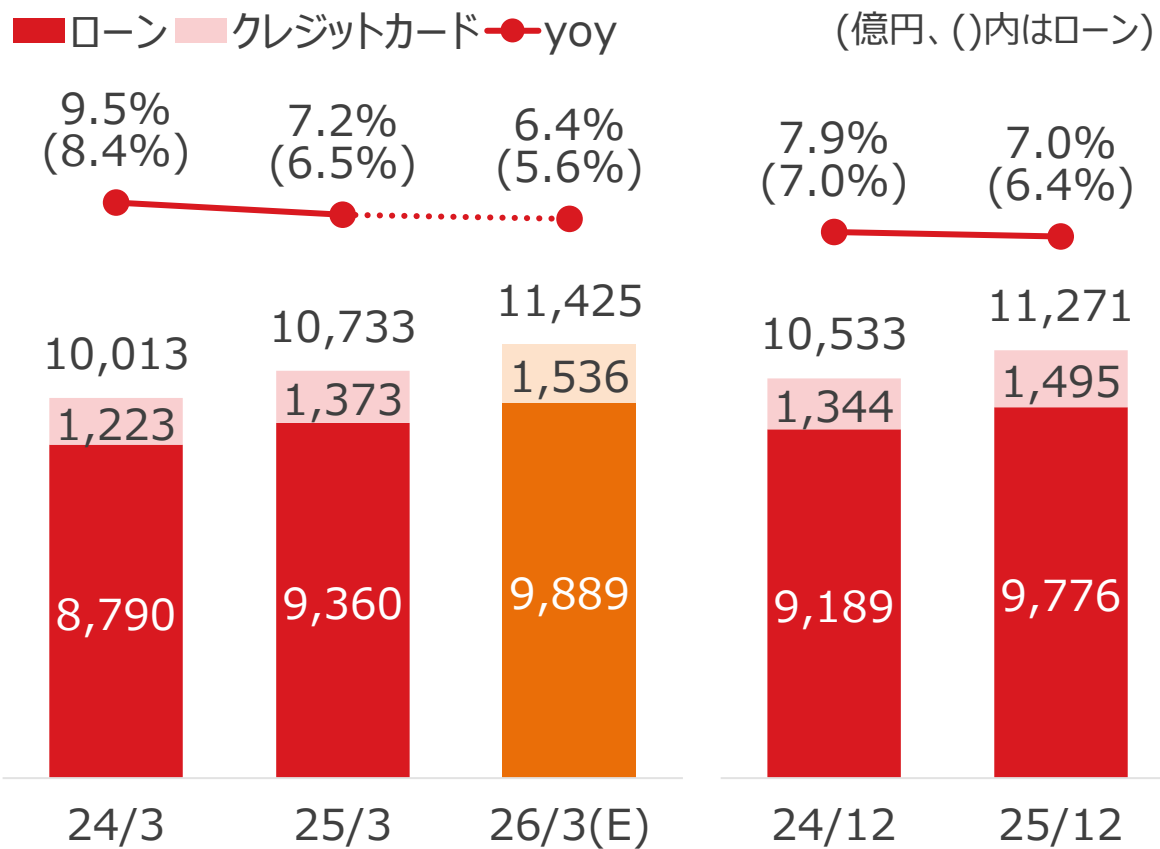
(百万円、%)

	2024/12 実績	2025/12 実績	yoy	2026/3 計画	yoy	進捗率
1 営業収益	236,825	251,268	6.1	331,800	4.4	75.7
2    ローン・クレジットカード事業	126,812	136,312	7.5	179,900	6.1	75.8
3    信用保証事業	56,436	60,006	6.3	80,800	5.9	74.3
4    海外金融事業	48,699	49,498	1.6	64,100	-2.0	77.2
5 営業費用	162,145	169,283	4.4	243,200	-6.2	69.6
6    金融費用	4,250	5,371	26.4	7,200	25.3	74.6
7    貸倒関連費用	79,499	81,057	2.0	111,800	5.8	72.5
8    利息返還費用	-	-	-	8,300	-79.3	-
9    その他の営業費用	78,395	82,853	5.7	115,900	7.6	71.5
10 営業利益	74,679	81,984	9.8	88,600	51.3	92.5
11 経常利益	74,965	82,196	9.6	88,900	50.9	92.5
12 税金等調整前当期純利益	74,837	82,433	10.1	88,900	51.6	92.7
13 当期純利益	50,300	72,531	44.2	76,100	108.1	95.3
14    親会社株主に帰属する当期純利益	46,915	68,688	46.4	72,200	124.8	95.1

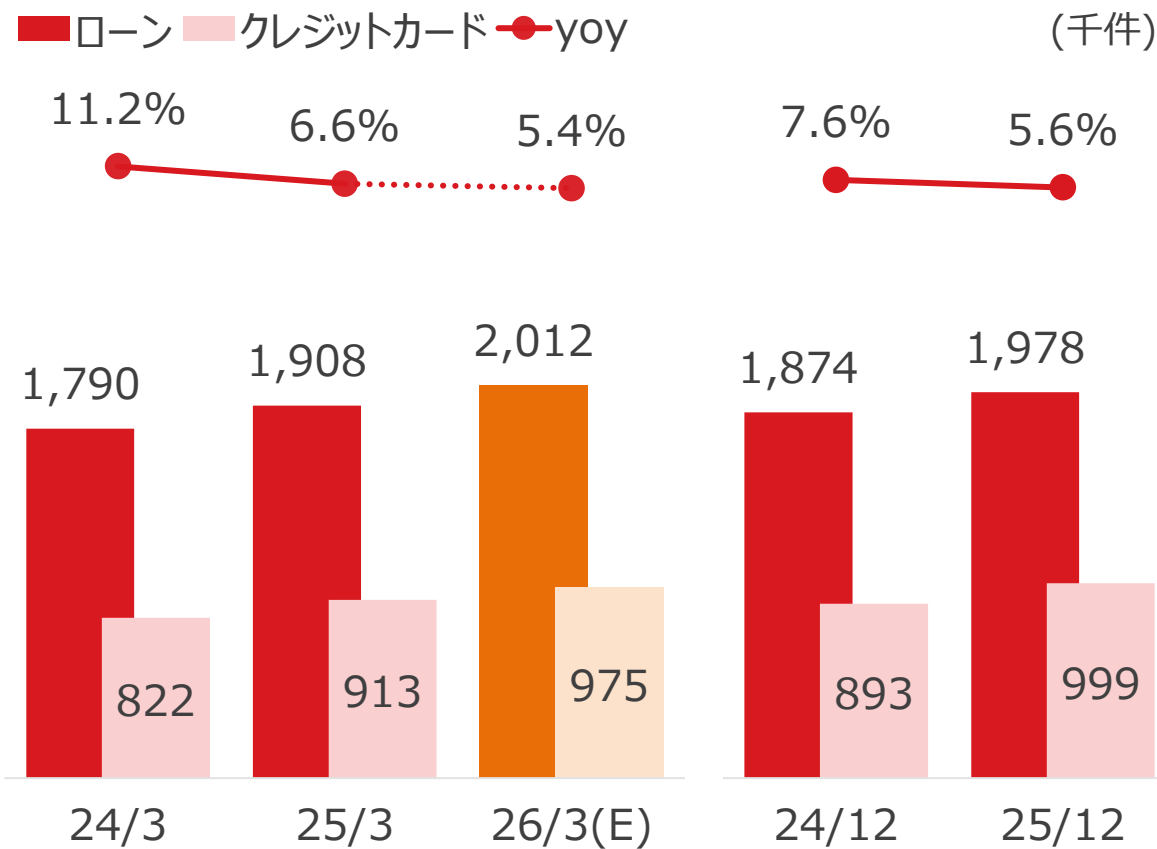
# Q ローン・クレジットカード事業 | 業容

- 既存顧客の利用が好調であったことから、営業債権残高は前年同期比 + 7.0% の 1 兆 1,271 億円
- 利用者数は同 + 5.6% の 1,978 千件

## ■ 営業債権残高



## ■ 利用者数\*

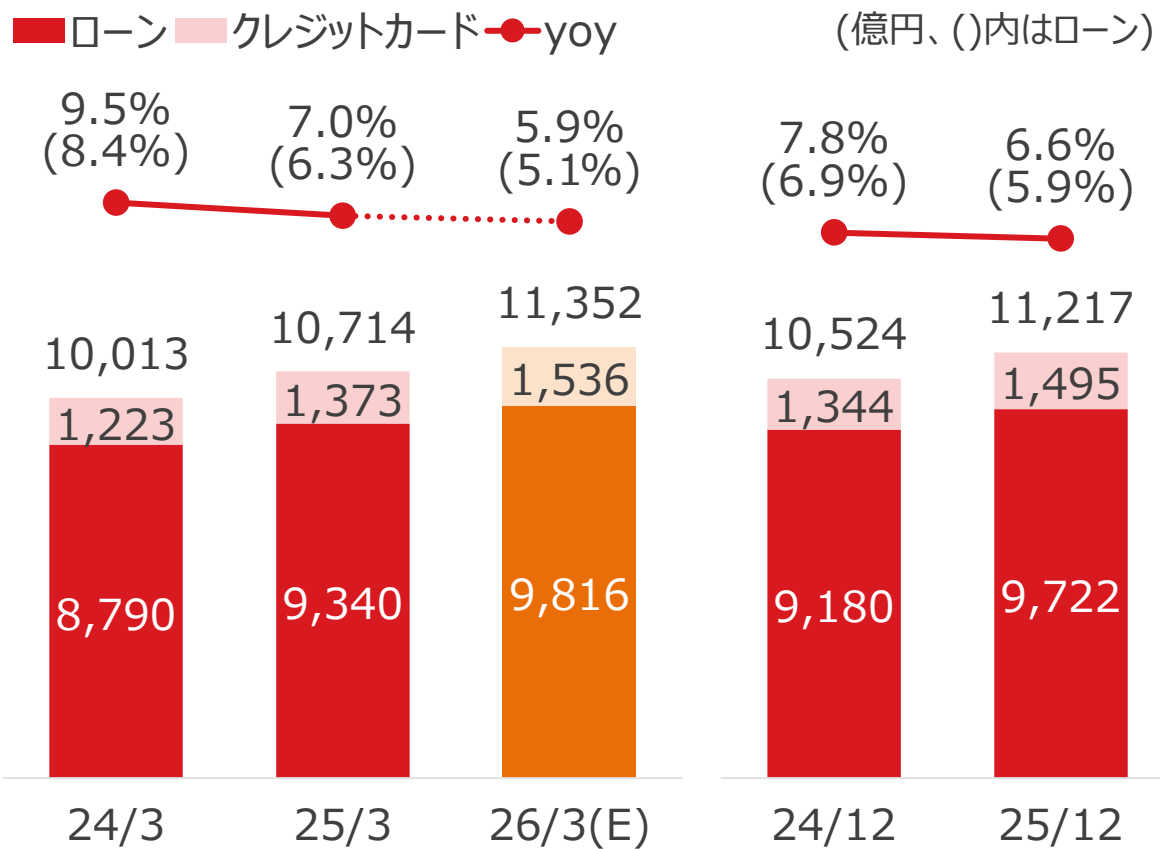


\* クレジットカード事業の利用者数は、有効会員数

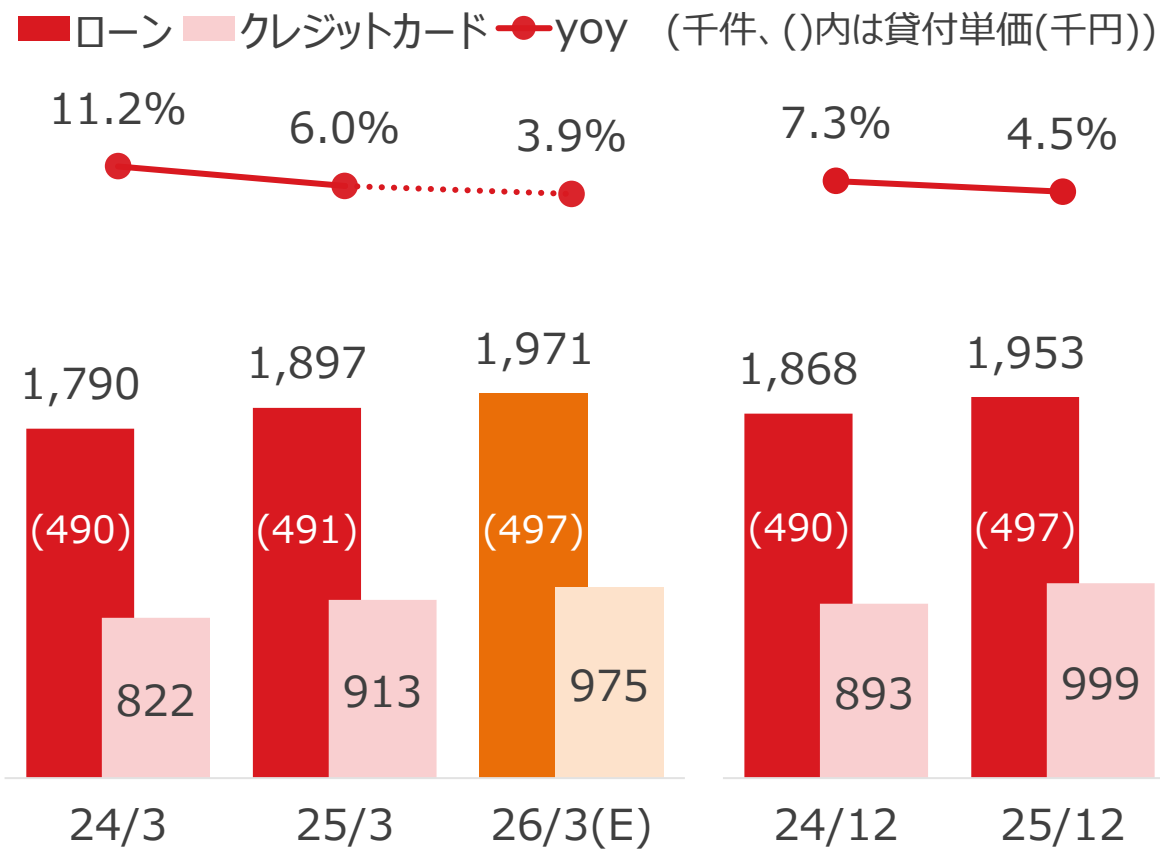
# Q ローン・クレジットカード事業 | 業容(アコム)

- 既存顧客の利用が好調であったことから、営業債権残高は前年同期比 + 6.6% の 1 兆 1,217 億円
- 利用者数は同 + 4.5% の 1,953 千件

## ■ 営業債権残高



## ■ 利用者数\*

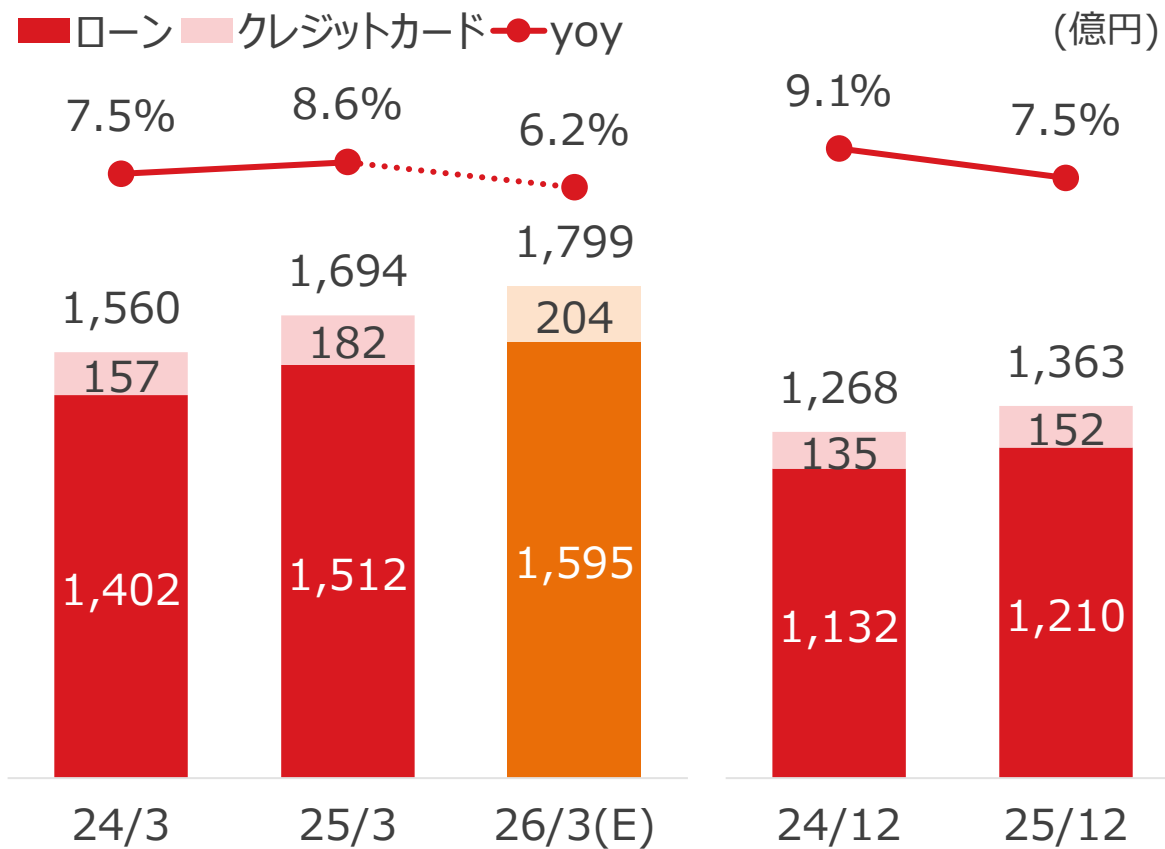


\* クレジットカード事業の利用者数は、有効会員数

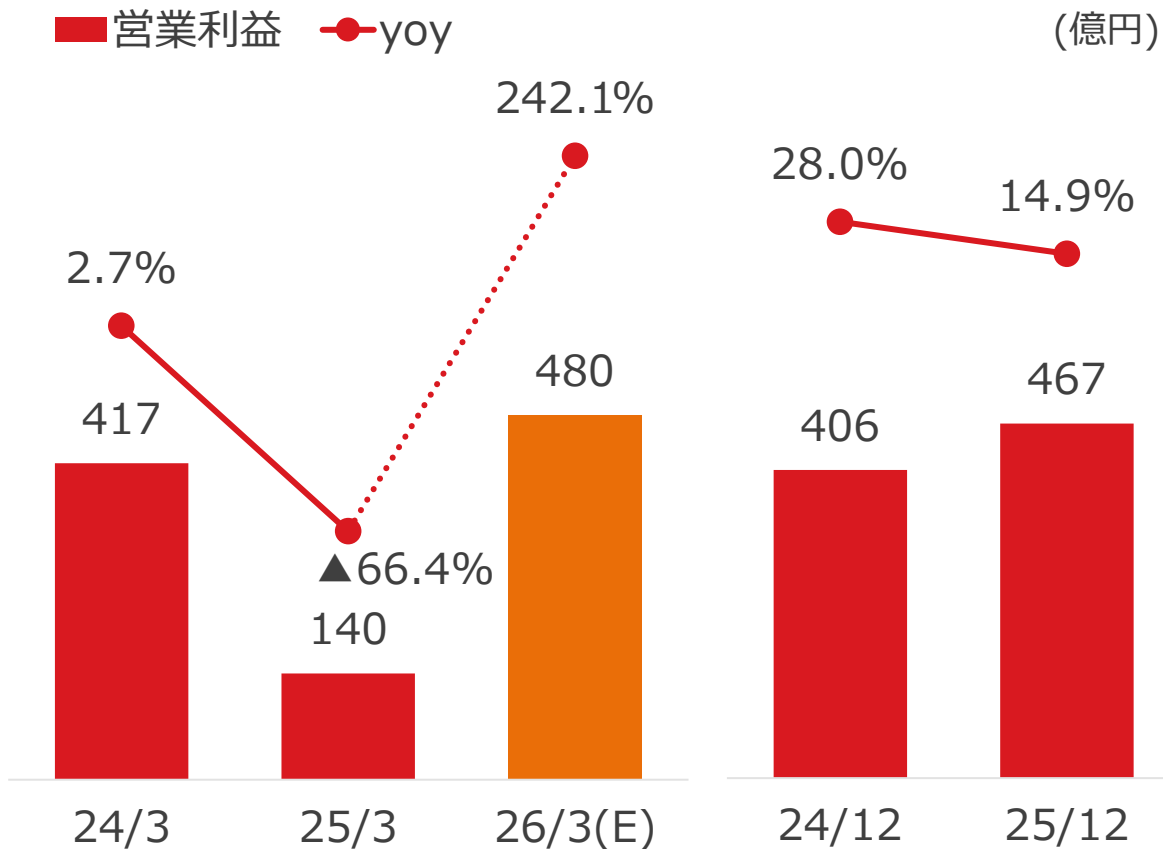
# Q ローン・クレジットカード事業 | 業績

- 営業収益は業容拡大を主因に、前年同期比 + 7.5% の 1,363 億円
- 営業利益は、同 + 14.9% の 467 億円

## ■ 営業収益



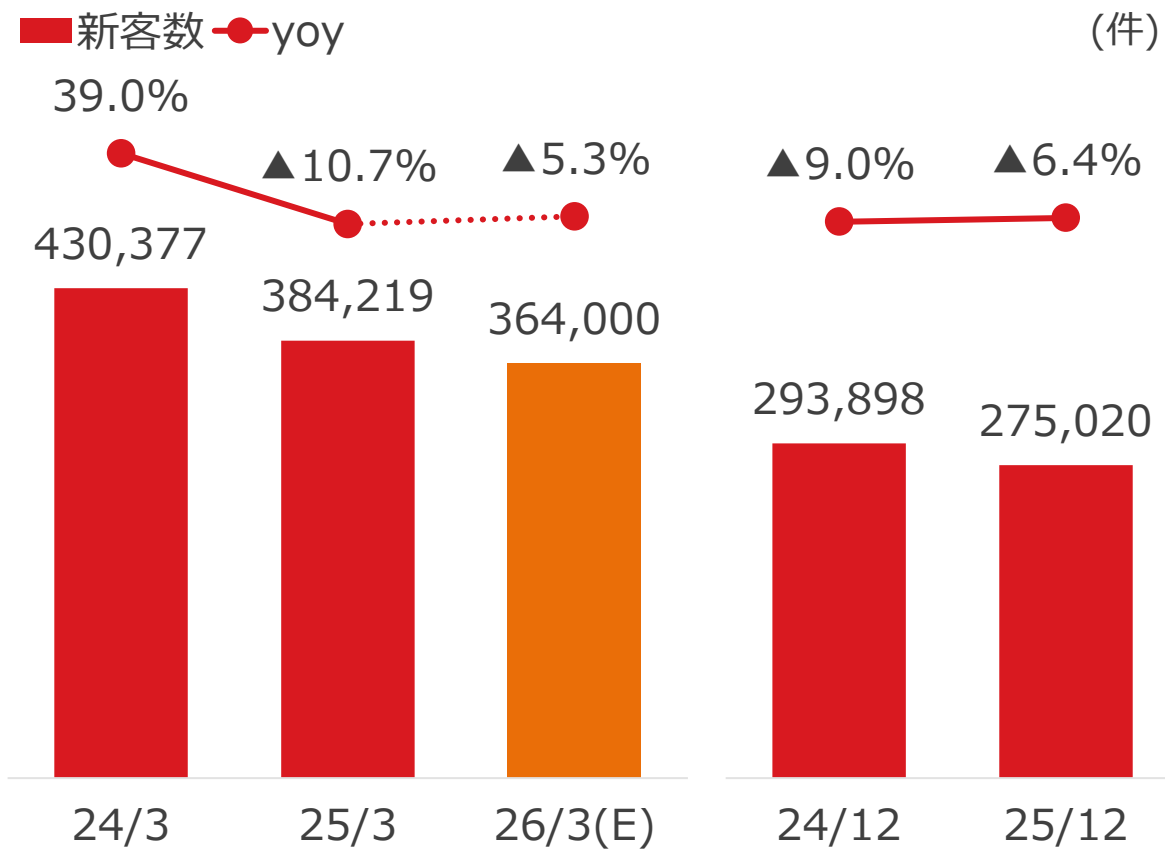
## ■ 営業利益



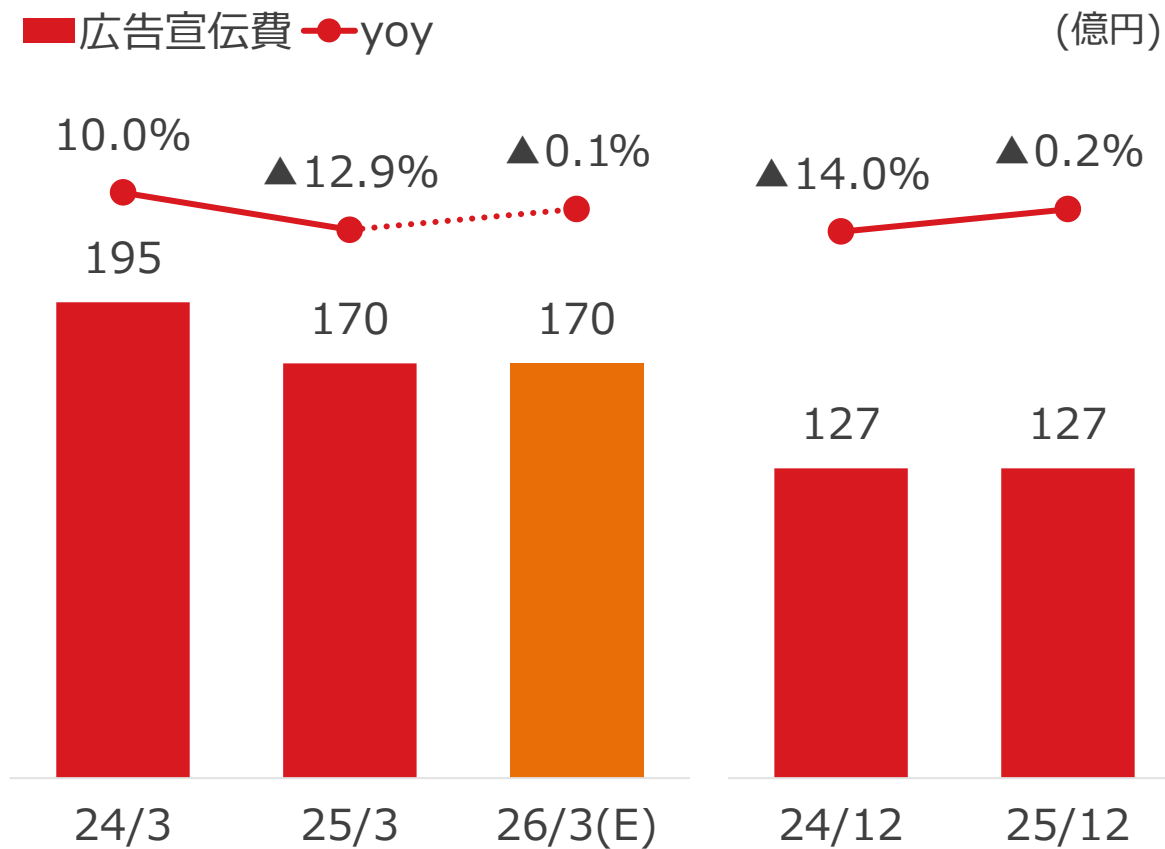
# ローン・クレジットカード事業 | 新客数(アコム)

- 新客数は、前年同期比▲6.4%の275,020件
- 広告宣伝費は、同▲0.2%の127億円

## ■ 新客数(無担保)



## ■ 広告宣伝費(アコム)



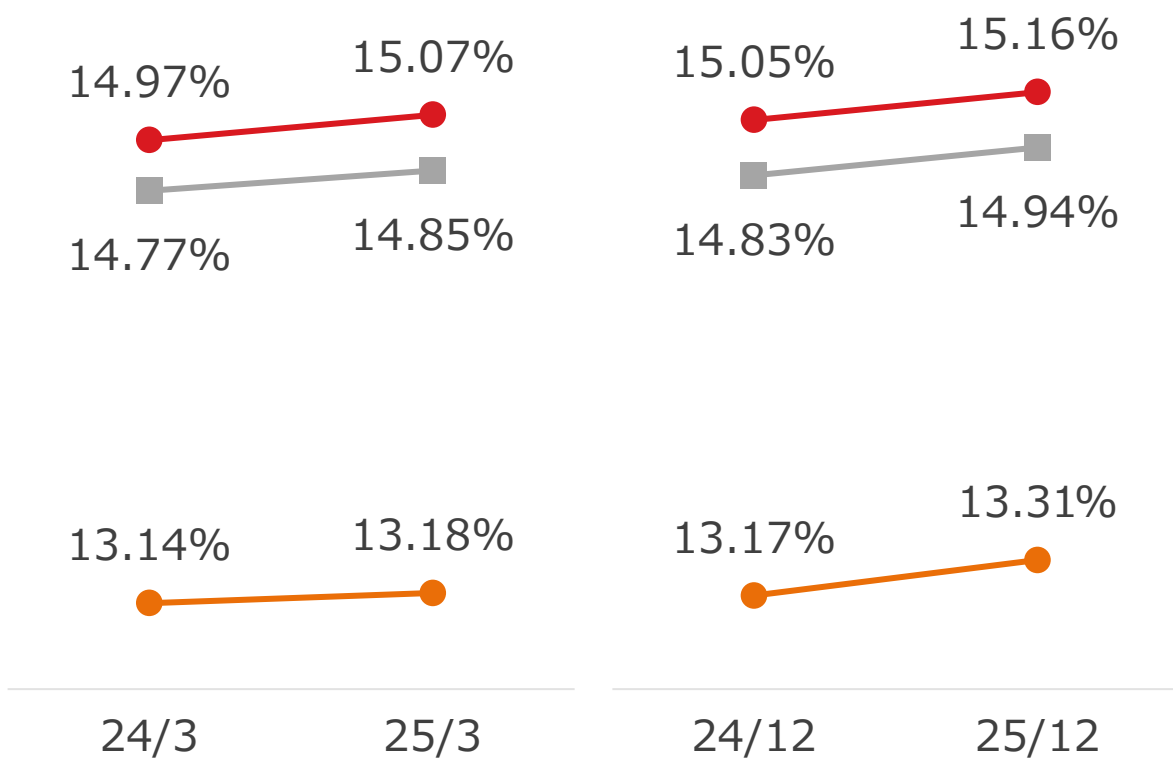


# Q ローン・クレジットカード事業 | 利回り・貸倒損失(アコム)

- ローン・クレジットカード事業の期中平均利回りは、前年同期比 + 11bps の 14.94%
- 貸倒損失率は、同 ▲ 15bps の 3.59%

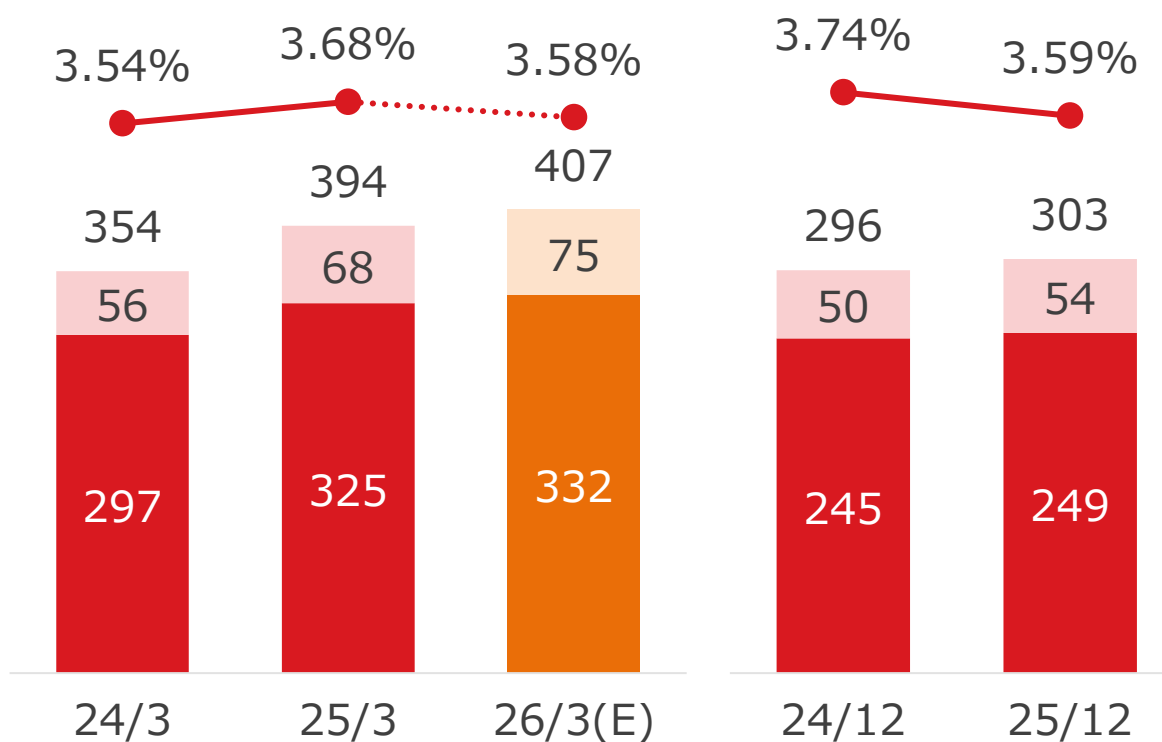
## ■ 期中平均利回り\*1

● ローン ● クレジットカード ■ ローン・クレジットカード



## ■ 貸倒損失額・損失率\*2

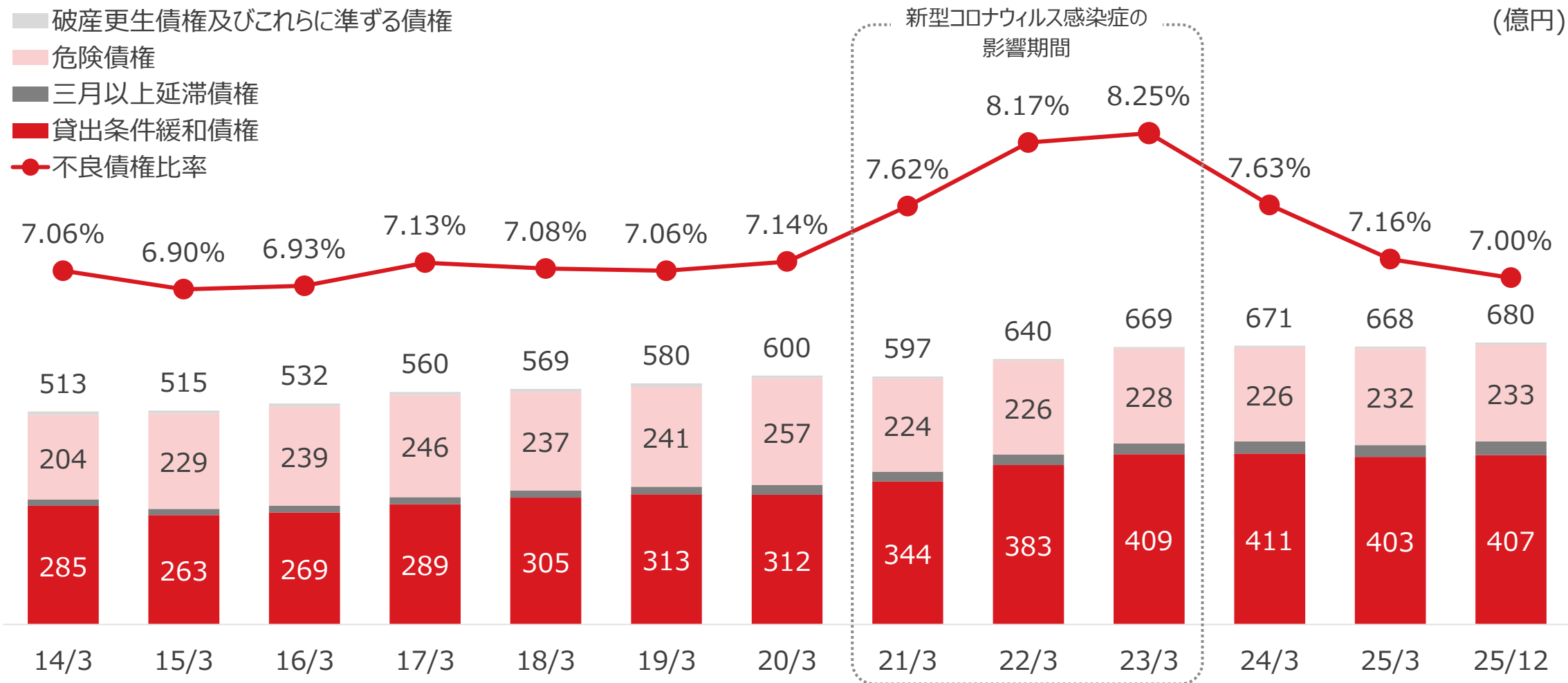
■ ローン ■ クレジットカード ● 貸倒損失率\*3 (億円)



\*1 クレジットカードにおける利回りはリボルビング残高と手数料より算出 \*2 貸倒損失額及び損失率は利息返還請求に起因する債権放棄分を除く \*3 貸倒損失率の24/12及び25/12は年率換算

# ローン事業 | 不良債権

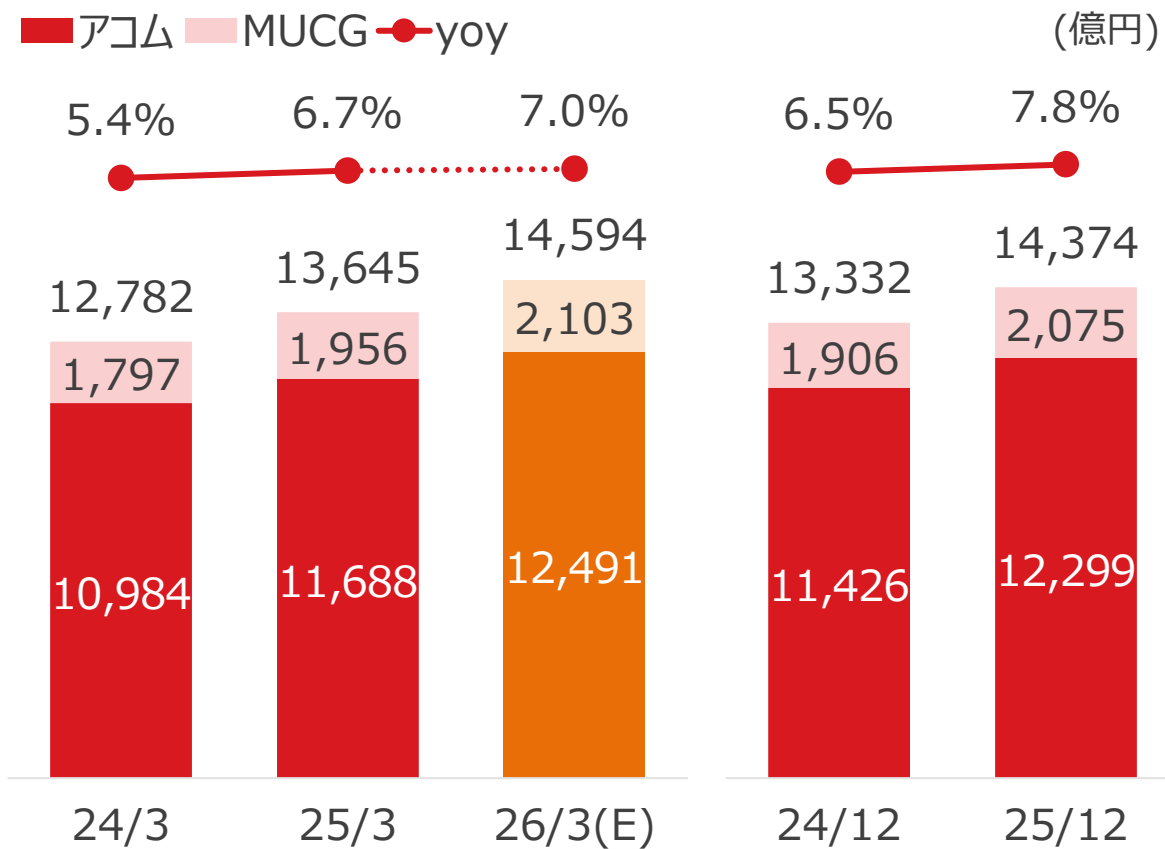
- 不良債権残高は、680億円
- 債権の良化に伴い、不良債権比率は7.00%まで低下



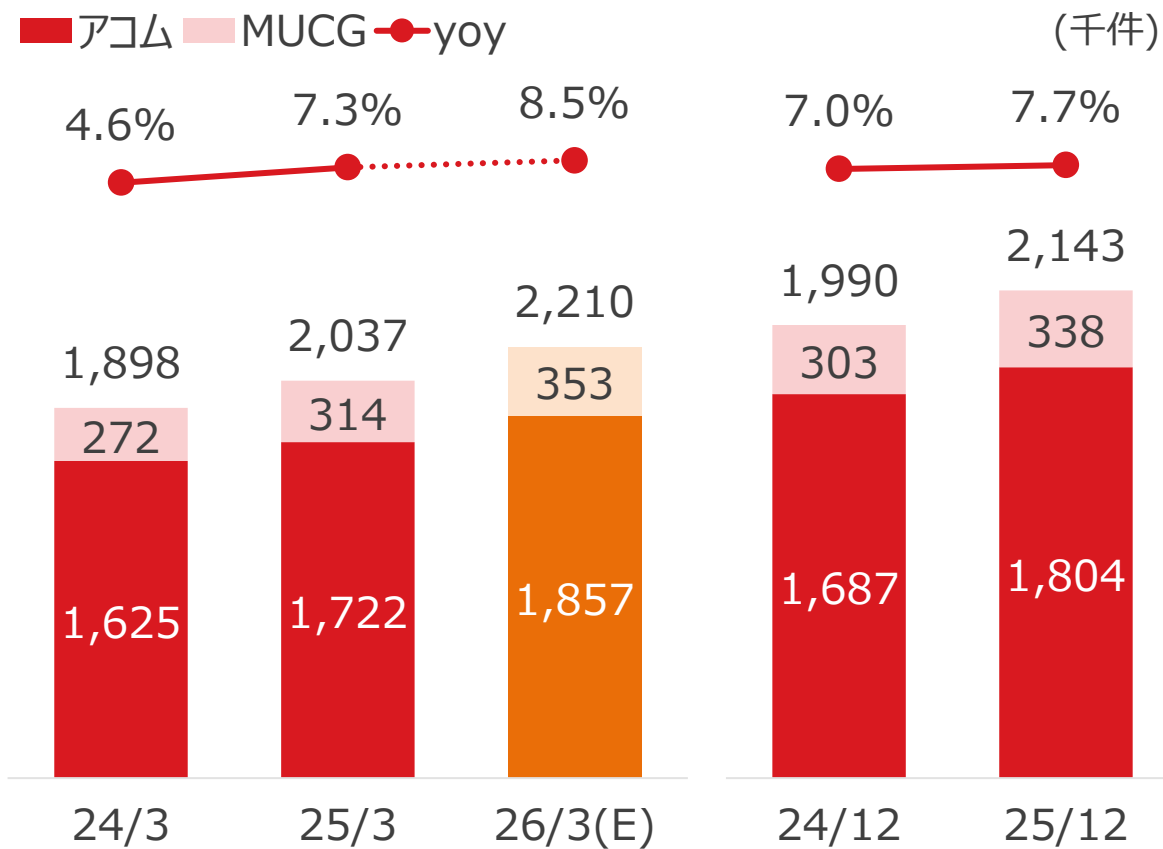
# Q 信用保証事業 | 業容

- 新規顧客及び既存顧客の利用が好調であったことから、信用保証残高は前年同期比 + 7.8% の 1 兆 4,374 億円
- 利用者数は同 + 7.7% の 2,143 千件

## ■ 信用保証残高



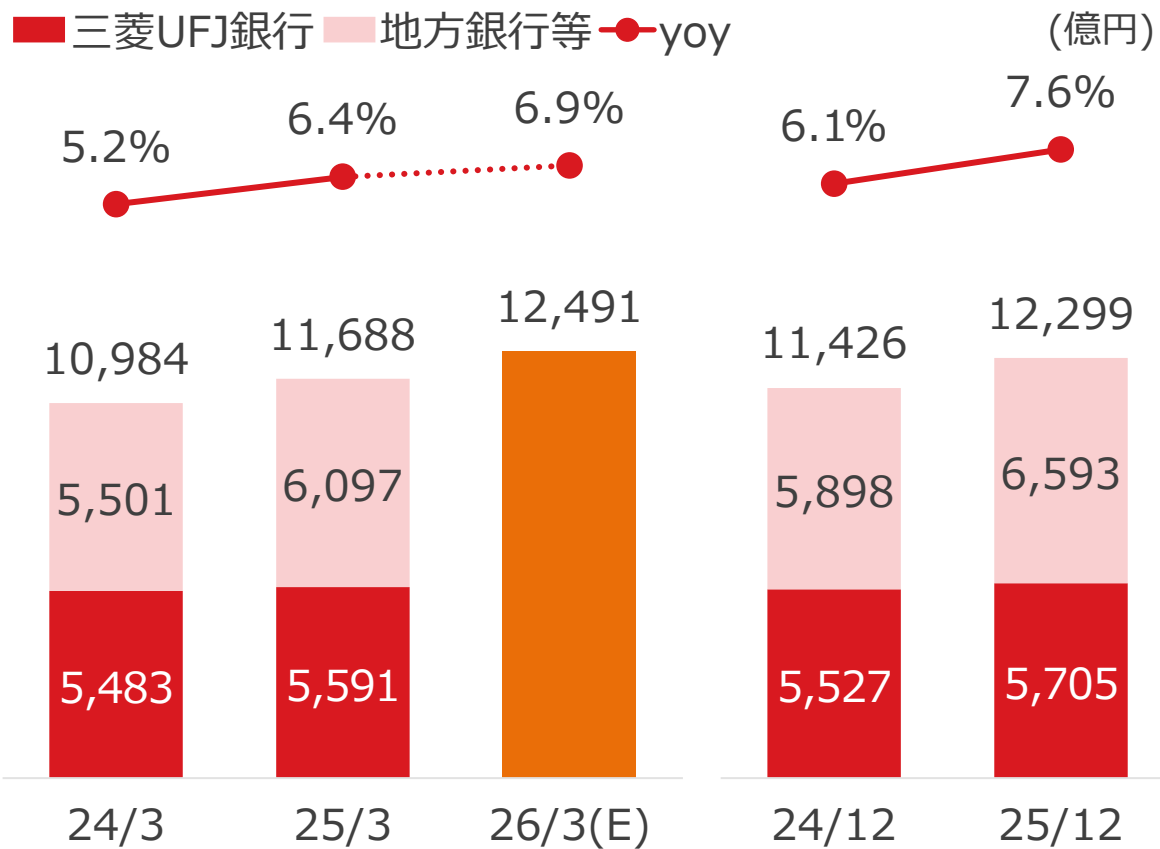
## ■ 利用者数



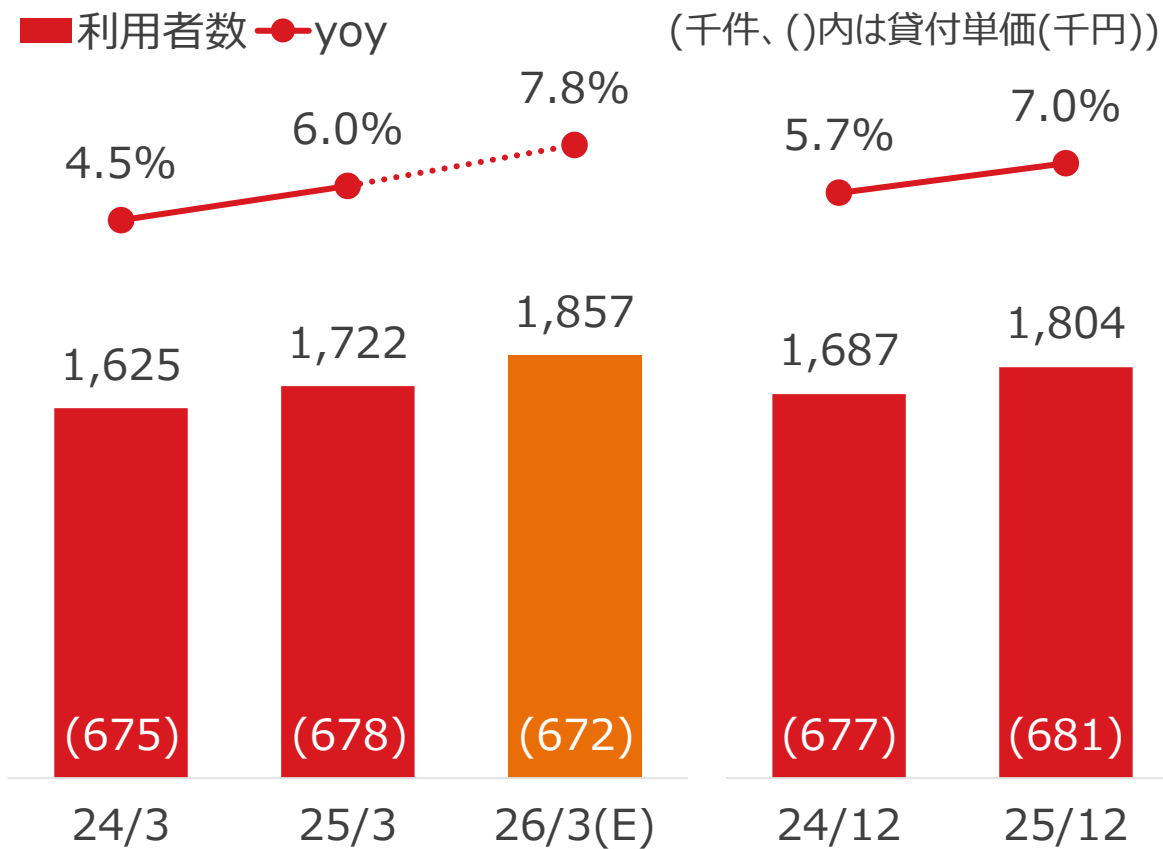
# 信用保証事業 | 業容(アコム)

- アコム単体の信用保証残高は前年同期比 + 7.6% の 1兆2,299億円
- 利用者数は同 + 7.0% の 1,804千件

## 信用保証残高



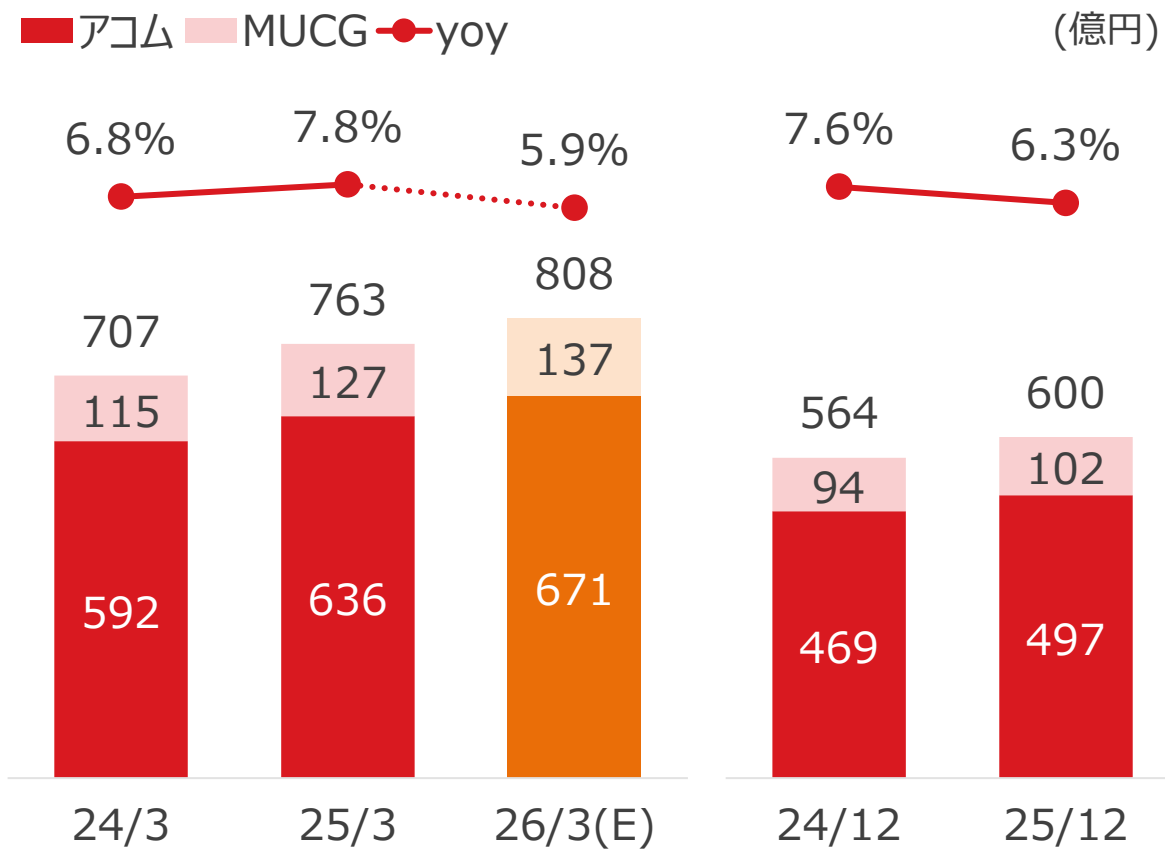
## 利用者数



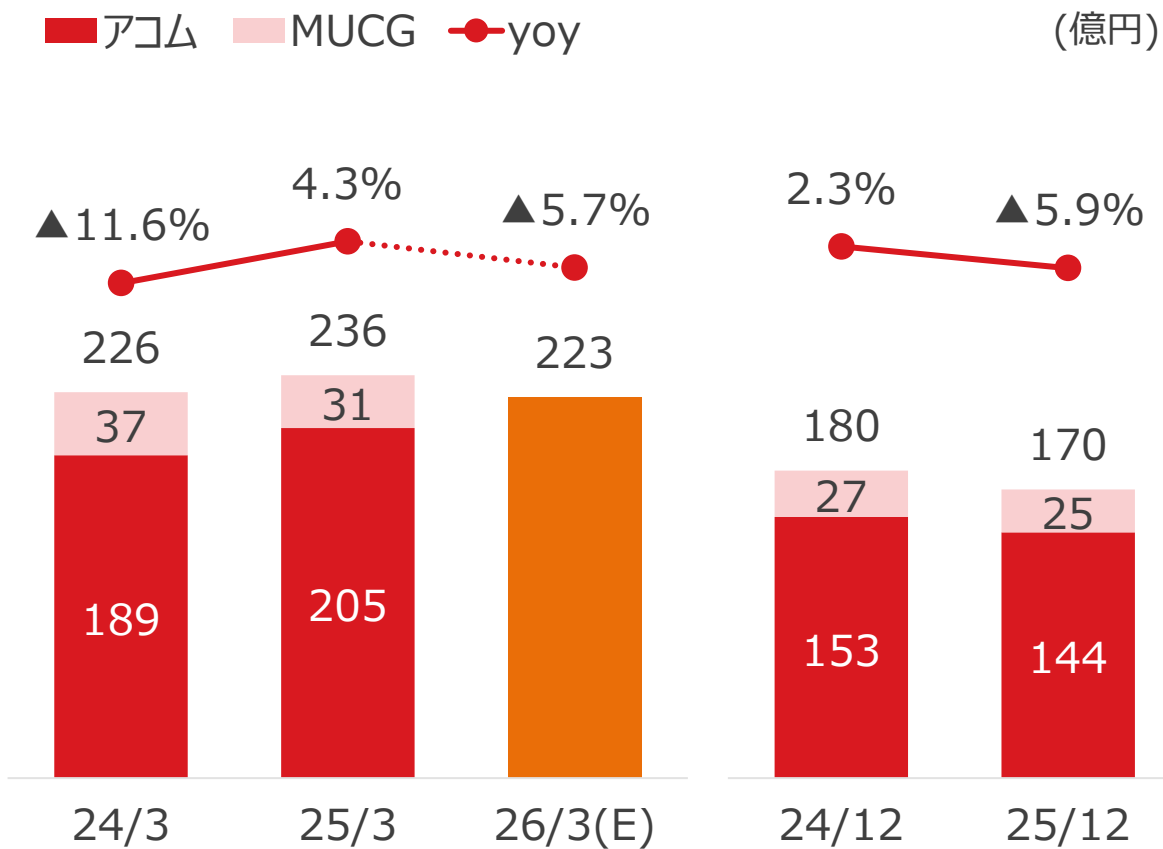
# 信用保証事業 | 業績

- 営業収益は、業容拡大により、前年同期比 + 6.3%の600億円
- 営業利益は、貸倒関連費用の増加を主因に、同▲5.9%の170億円

## ■ 営業収益



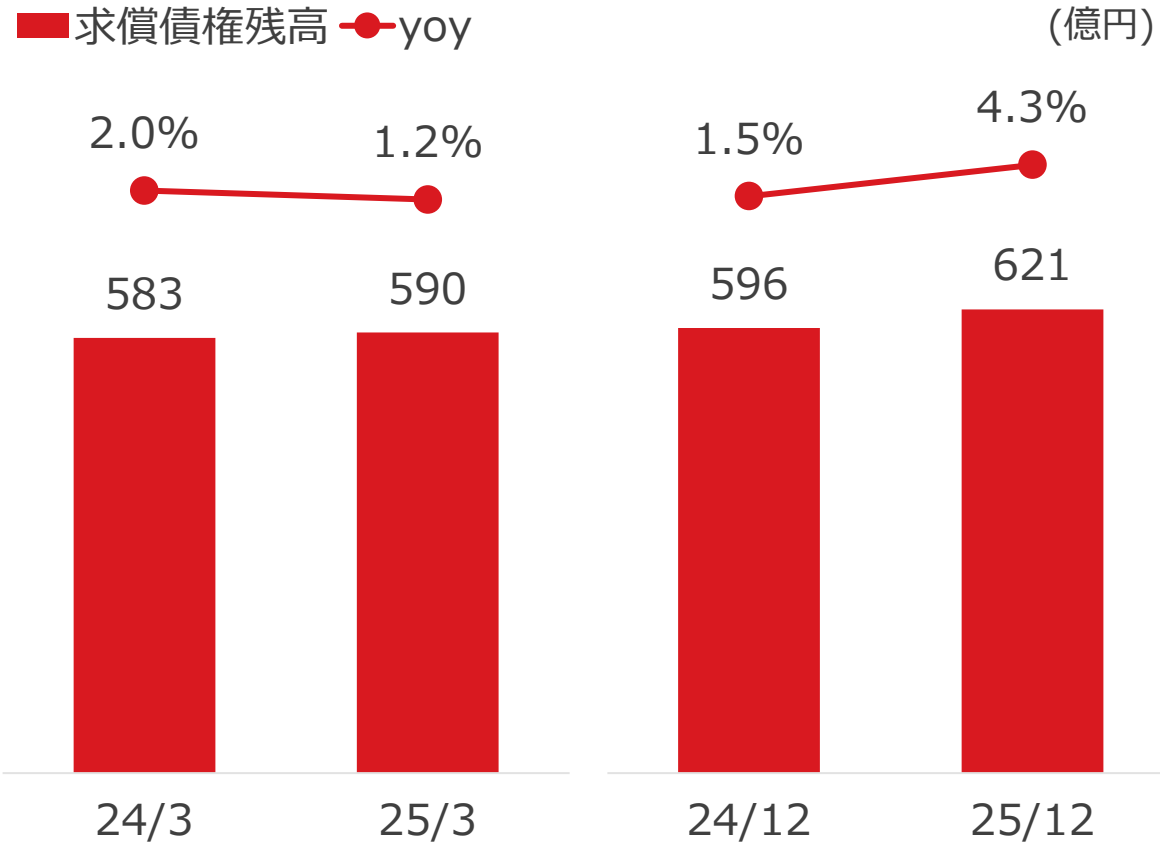
## ■ 営業利益



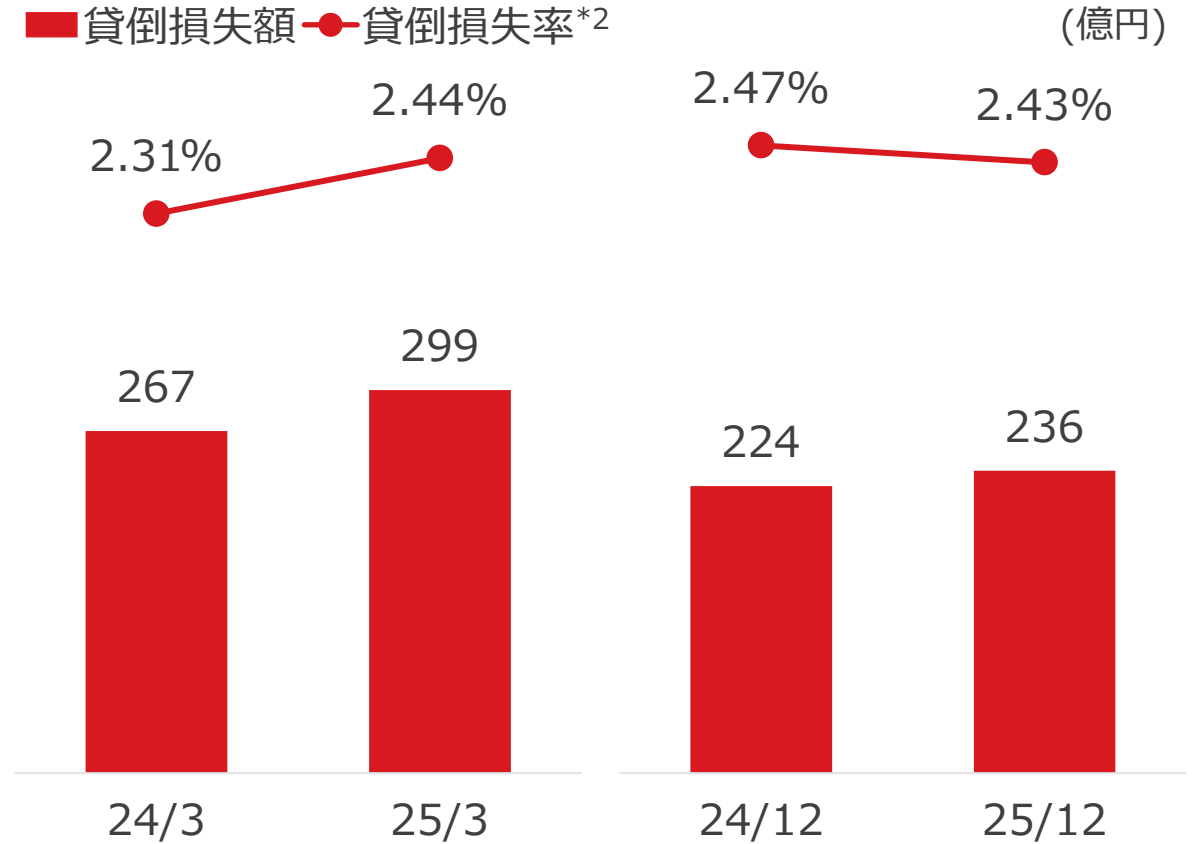
# 信用保証事業 | 求償債権・貸倒損失(アコム)

- 求償債権は、前年同期比 +4.3%の621億円
- 貸倒損失率は、同▲4bpsの2.43%

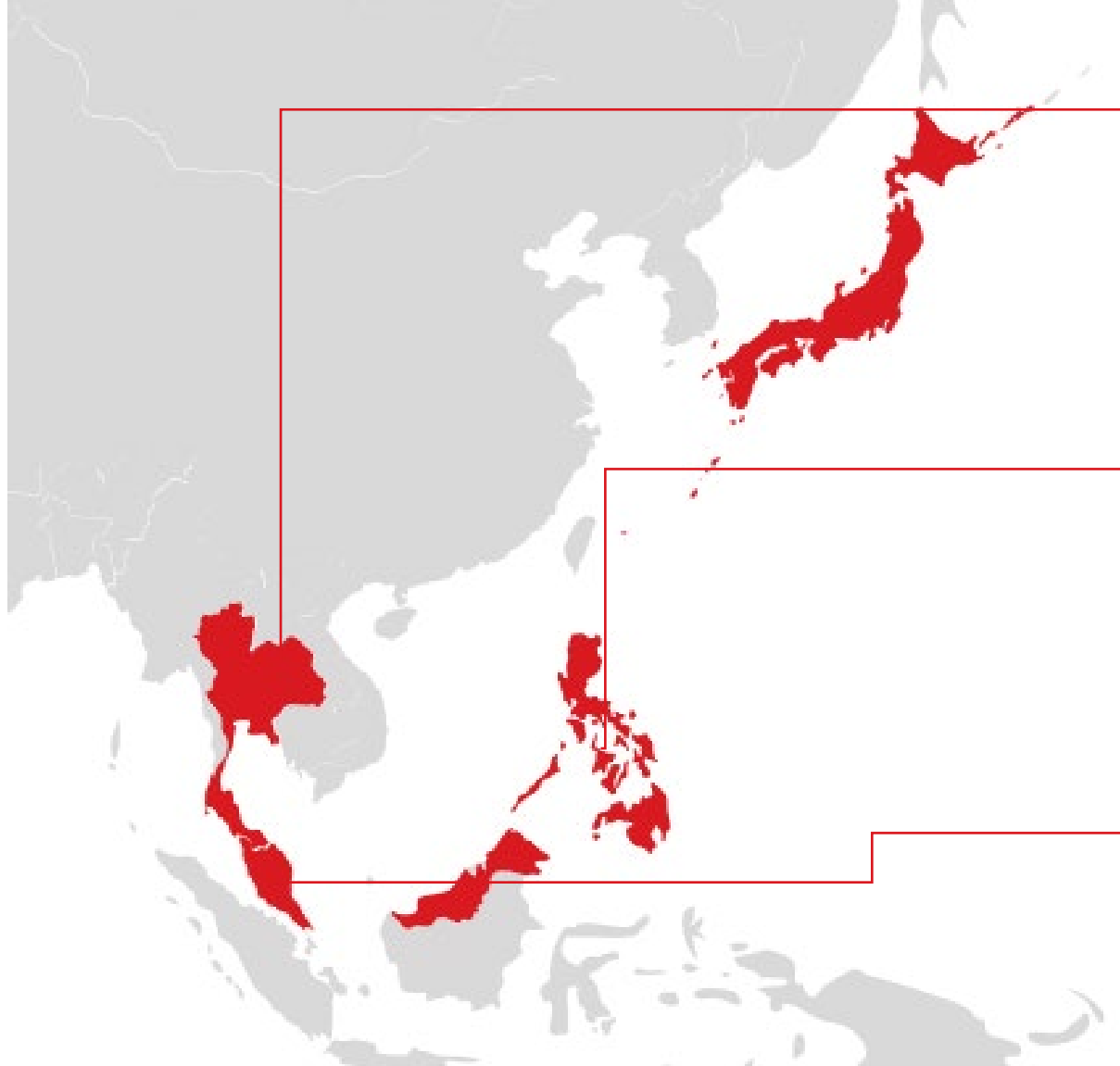
## ■ 求償債権残高\*1



## ■ 貸倒損失額・損失率



\*1 求償債権残高とは、保証履行未償却債権残高 \*2 貸倒損失率の24/12及び25/12は年率換算



## タイ王国

EASY BUY Public Company Limited

出資比率： 71.00%

設立年月： 1996年9月

事業内容： 無担保ローン事業、インストールメントローン事業

## フィリピン共和国

ACOM CONSUMER FINANCE CORPORATION

出資比率： 80.00%

設立年月： 2017年7月

事業内容： 無担保ローン事業

## マレーシア

ACOM (M) SDN. BHD.

出資比率： 100.00%

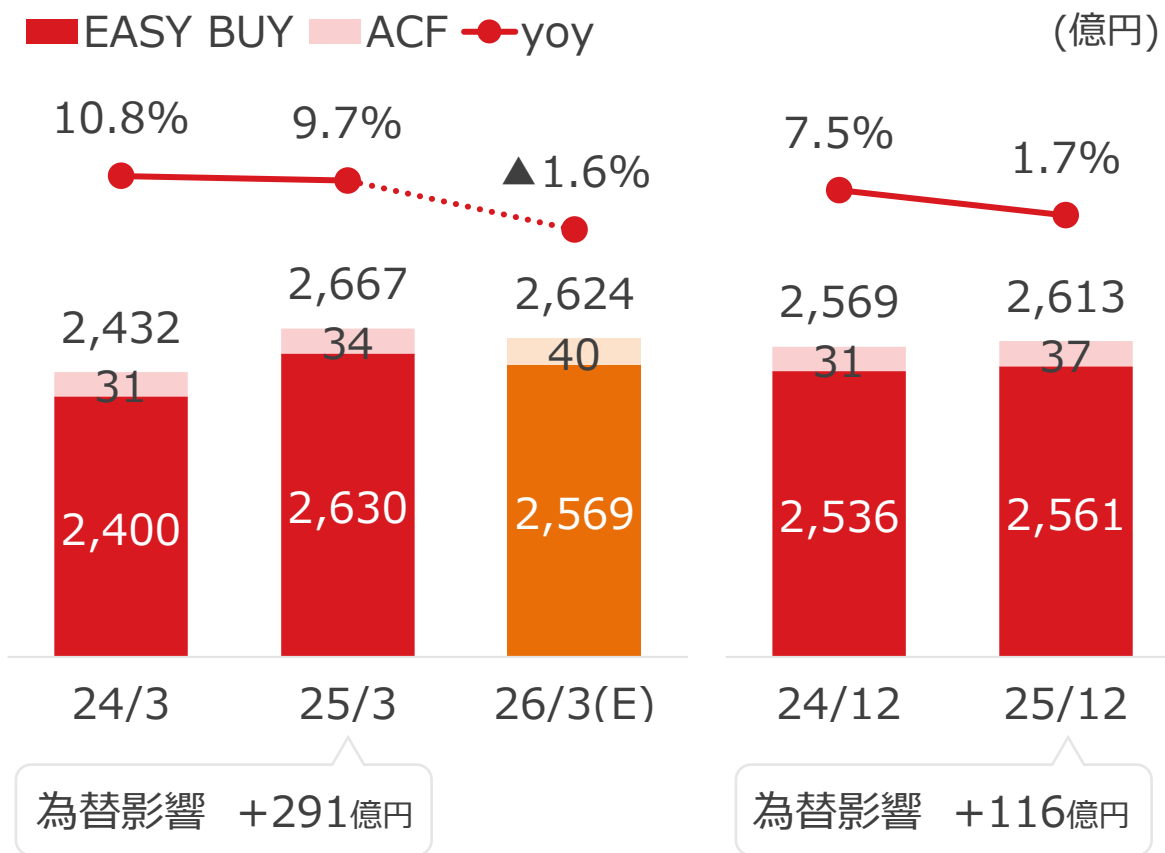
設立年月： 2021年7月

事業内容： 無担保ローン事業

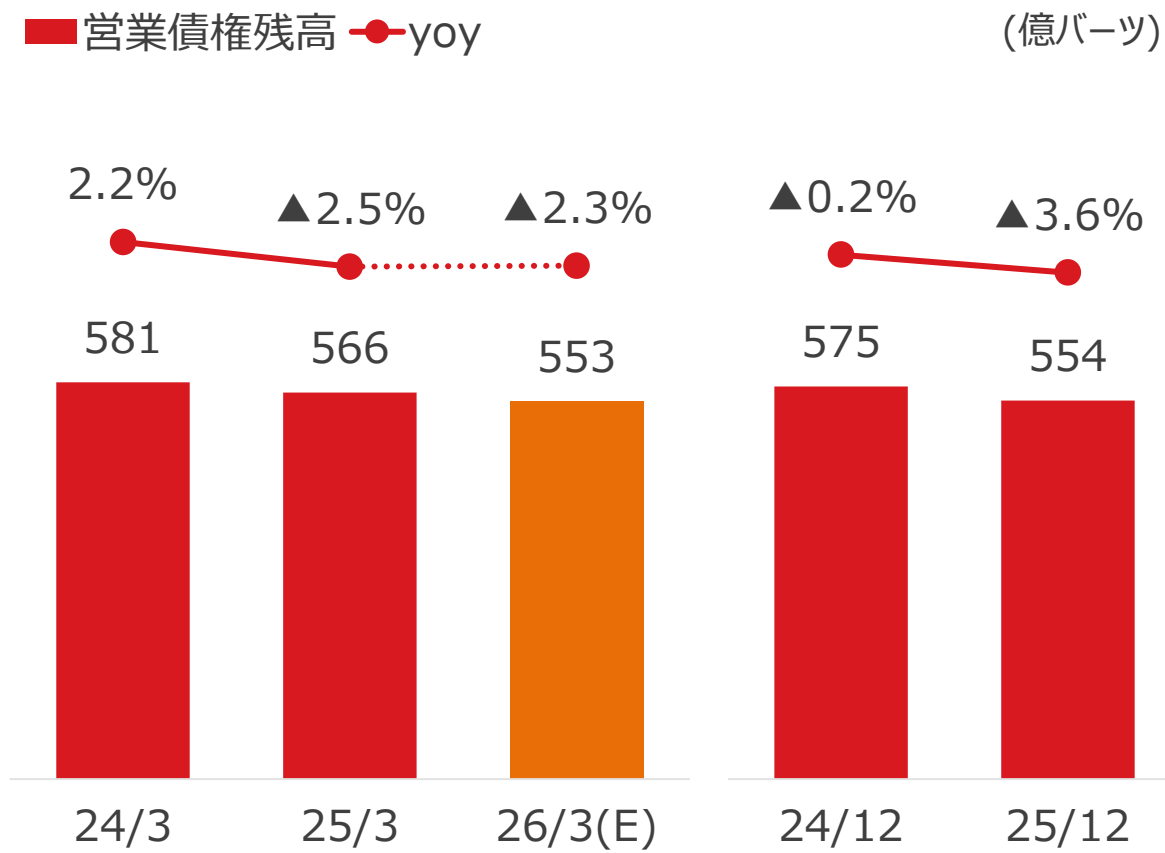
# 海外金融事業 | 営業債権残高\*1

- 営業債権残高(円ベース)は、円安の為替影響により、前年同期比+1.7%の2,613億円
- タイ王国のEASY BUY(現地通貨ベース)の営業債権残高は、同▲3.6%の554億バーツ

## ■ 海外金融事業(円ベース)\*2



## ■ EASY BUY(現地通貨ベース)



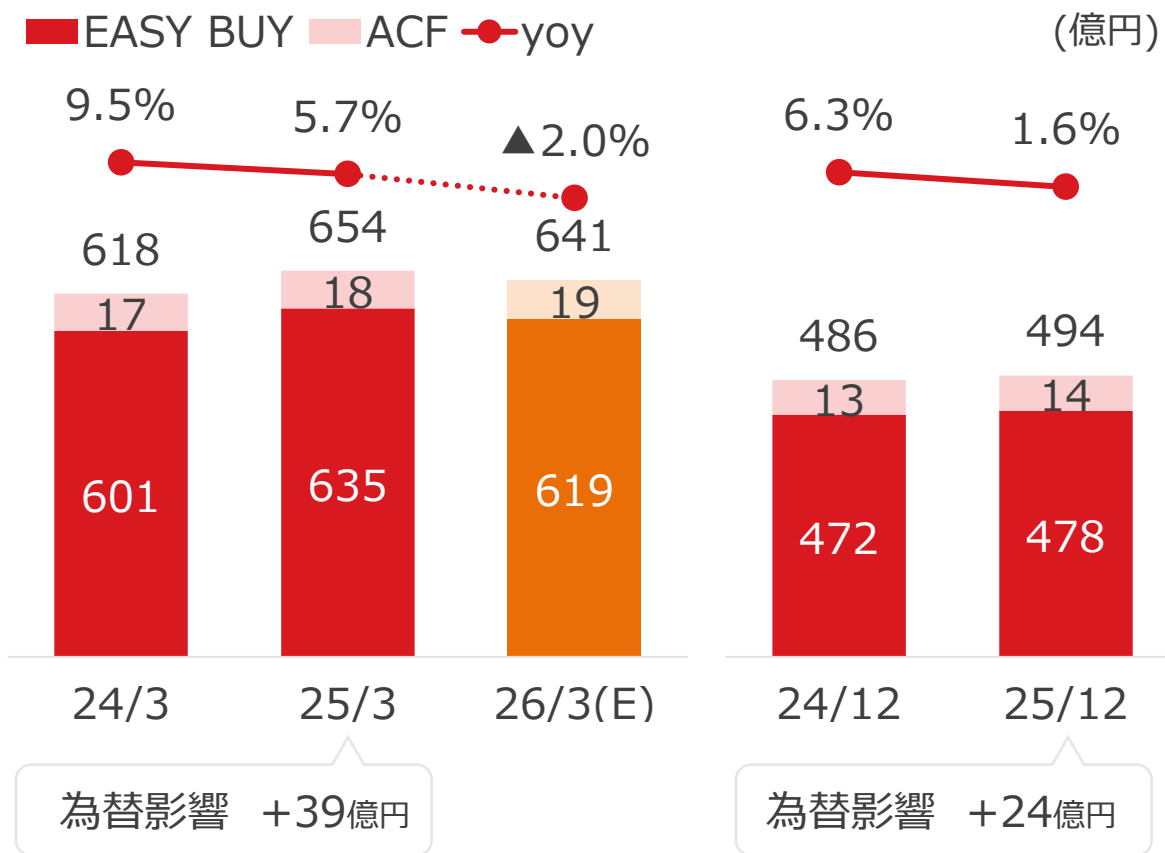
\*1 営業債権残高は営業貸付金残高と割賦売掛金残高の合計 \*2 為替レート(バーツ)：4.41円(24/12)、4.62円(25/12)、為替変動：+0.21円



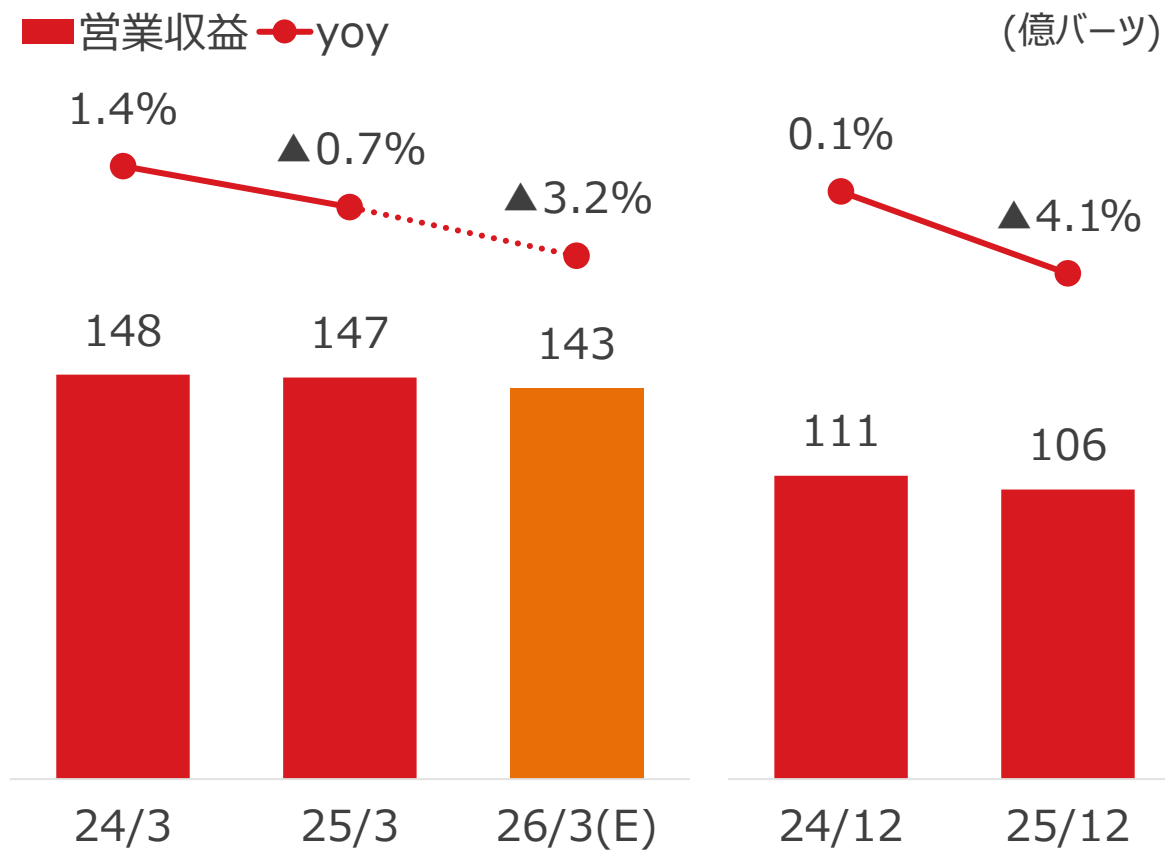
# 海外金融事業 | 営業収益

- 営業収益(円ベース)は、円安の為替影響により、前年同期比 + 1.6%の494億円
- EASY BUY(現地通貨ベース)の営業収益は、同 ▲4.1%の106億バーツ

## ■ 海外金融事業(円ベース)\*1\*2



## ■ EASY BUY(現地通貨ベース)

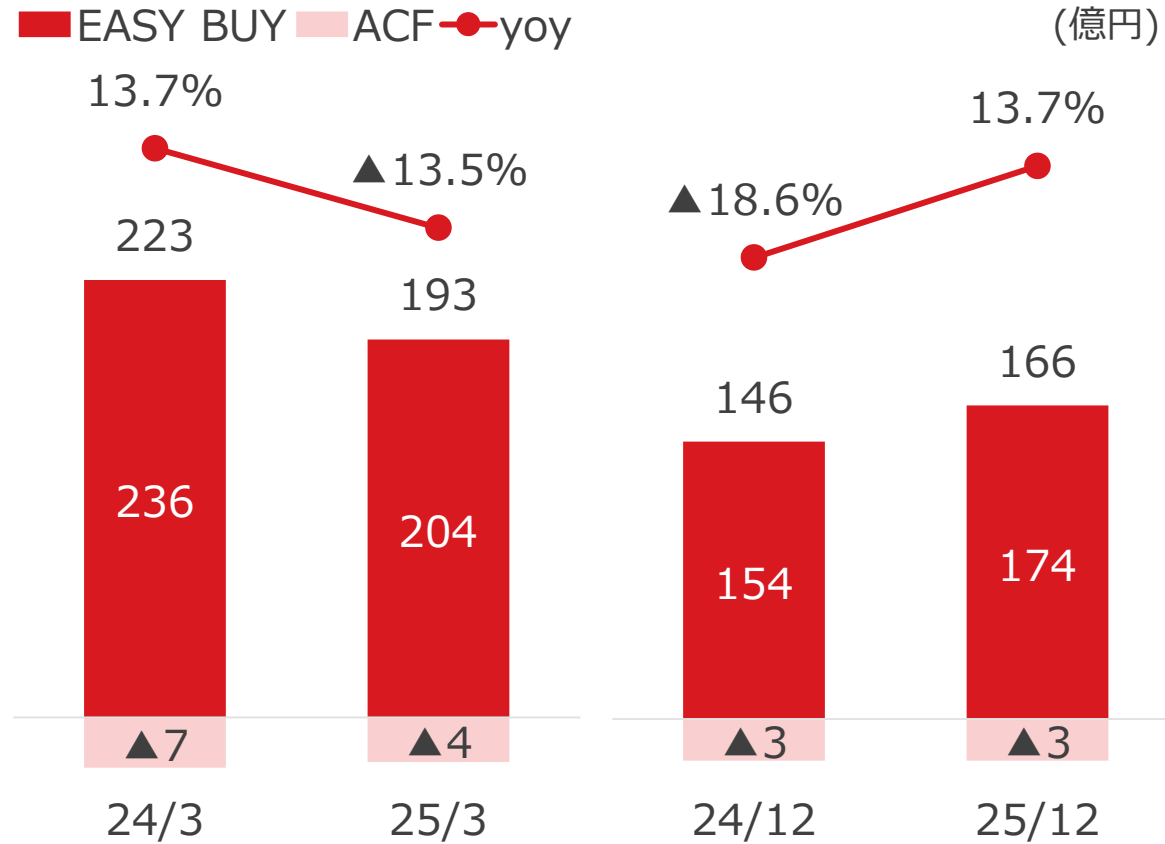


\*1 報告セグメント別の営業収益 \*2 為替レート(バーツ)：4.24円(24/12)、4.47円(25/12)、為替変動：0.23円

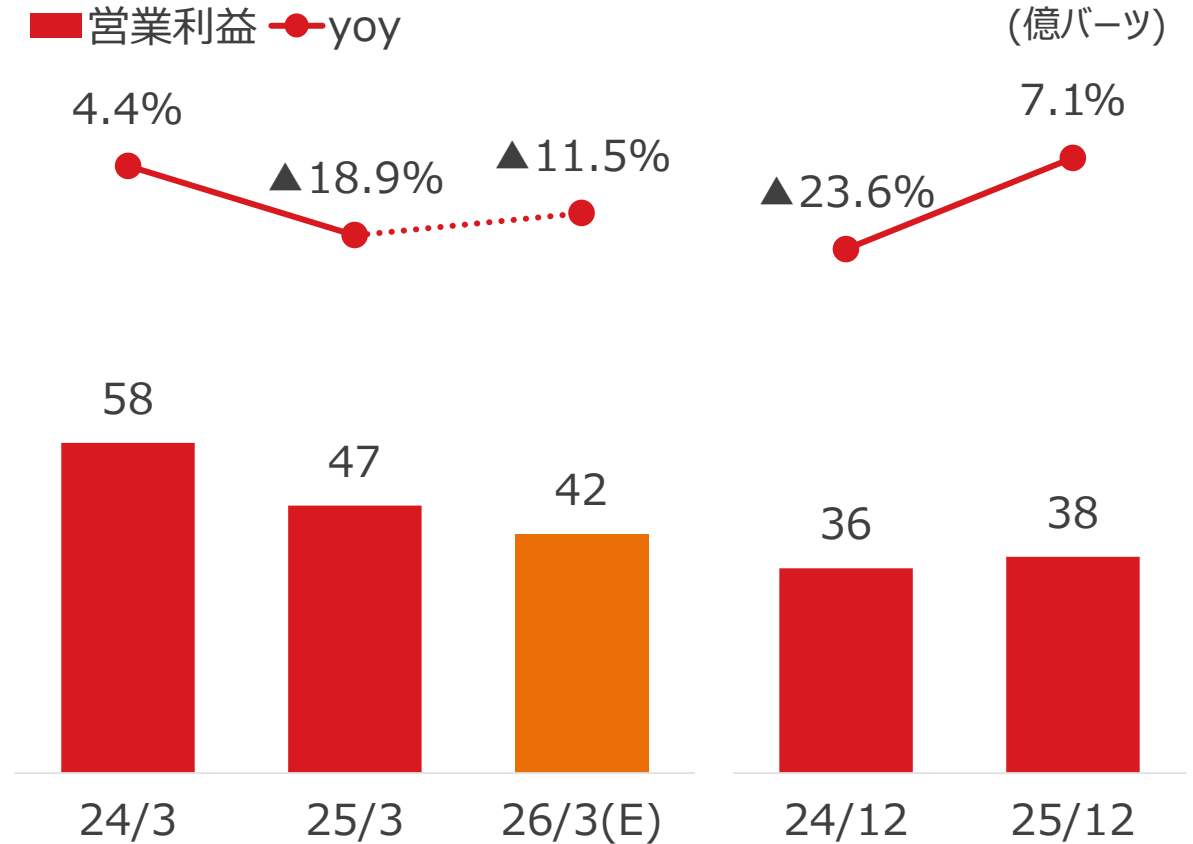
# 海外金融事業 | 営業利益

- 営業利益(円ベース)は、前年同期比 +13.7%の166億円
- EASY BUY(現地通貨ベース)の営業利益は、貸倒関連費用の減少を主因に、同 +7.1%の38億バーツ

## ■ 海外金融事業(円ベース)\*

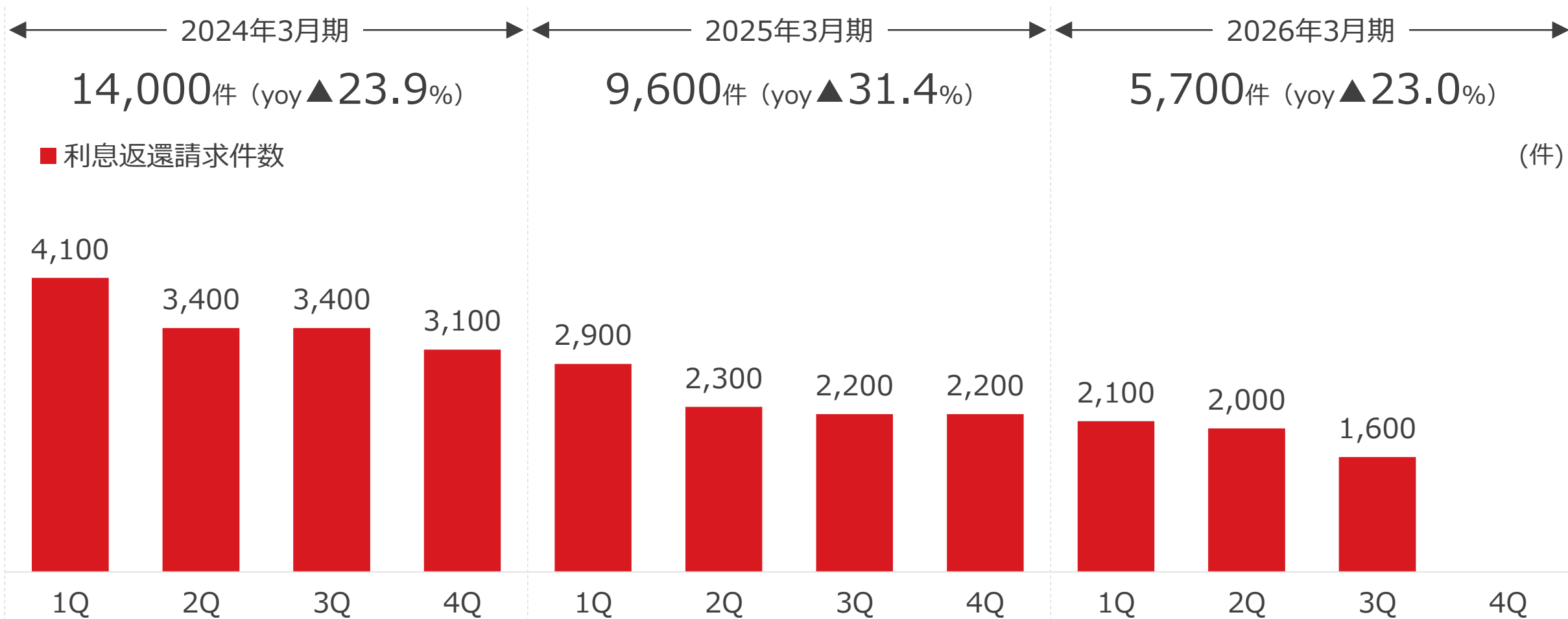


## ■ EASY BUY(現地通貨ベース)



# 利息返還請求件数\*

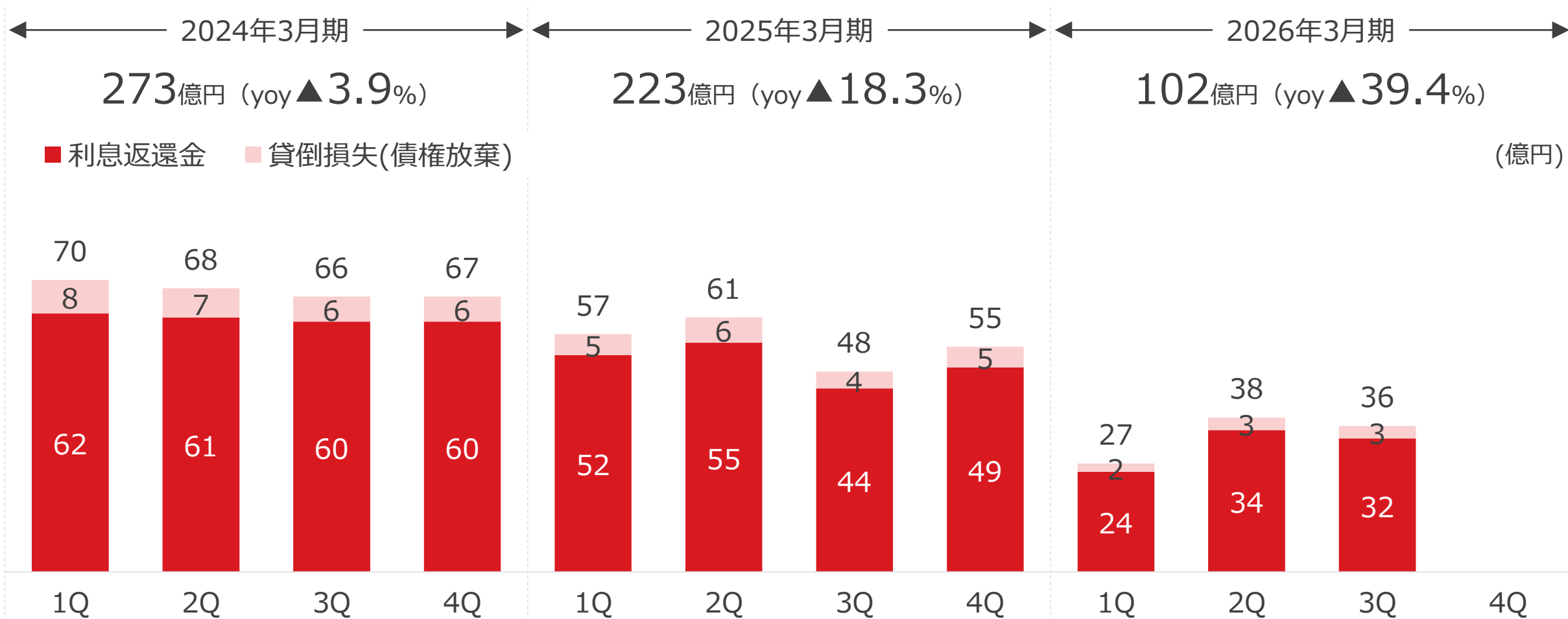
- 当第3四半期までの請求件数は、前年同期比▲23.0%の5,700件
- 2026年3月期の請求件数は、前期比▲20%程度を予想



\* 利息返還請求件数は、弁護士・司法書士受任債権発生件数のうち、当社が利息制限法に基づいて再計算した結果、利息返還金が発生する件数(再受任分を含む)

# 利息返還損失

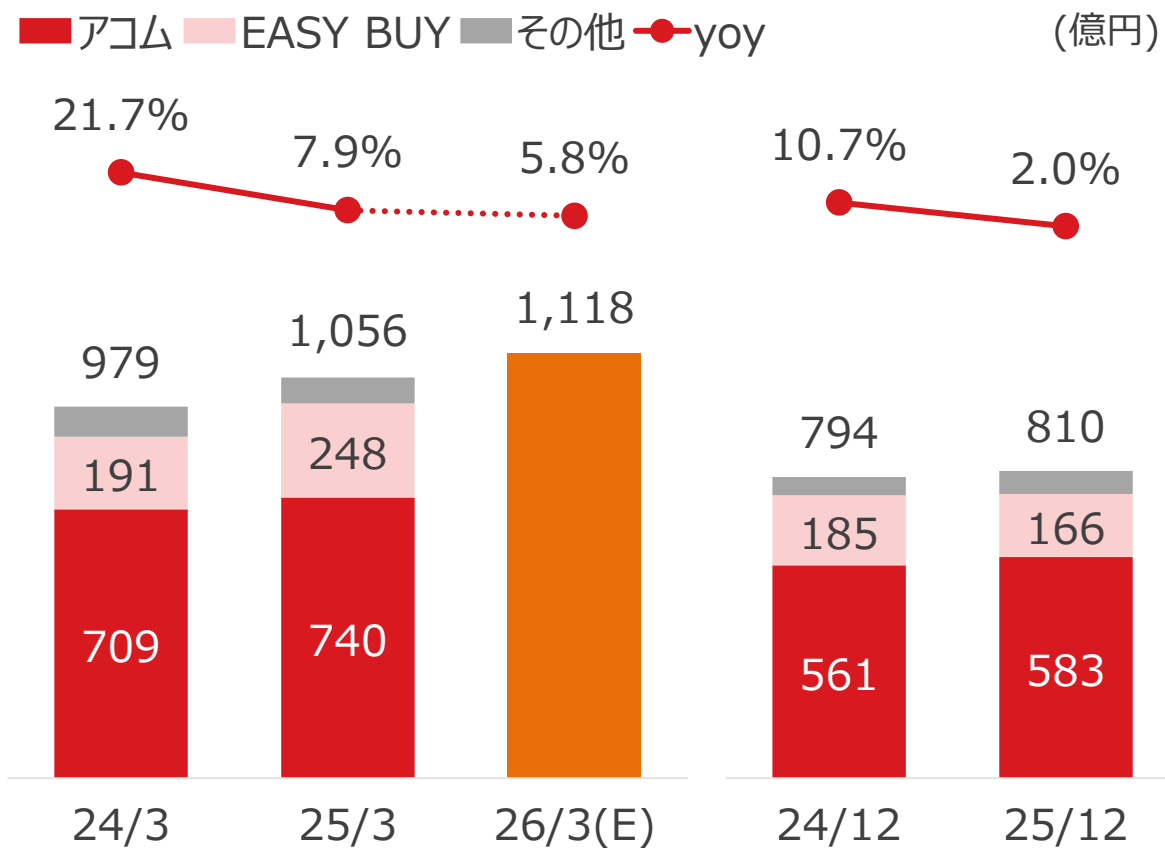
- 当第3四半期の取崩しは、前年同期比▲39.4%の102億円
- 引当金残高は377億円
- 2026年3月期の取崩額は前期比▲25%程度を予想



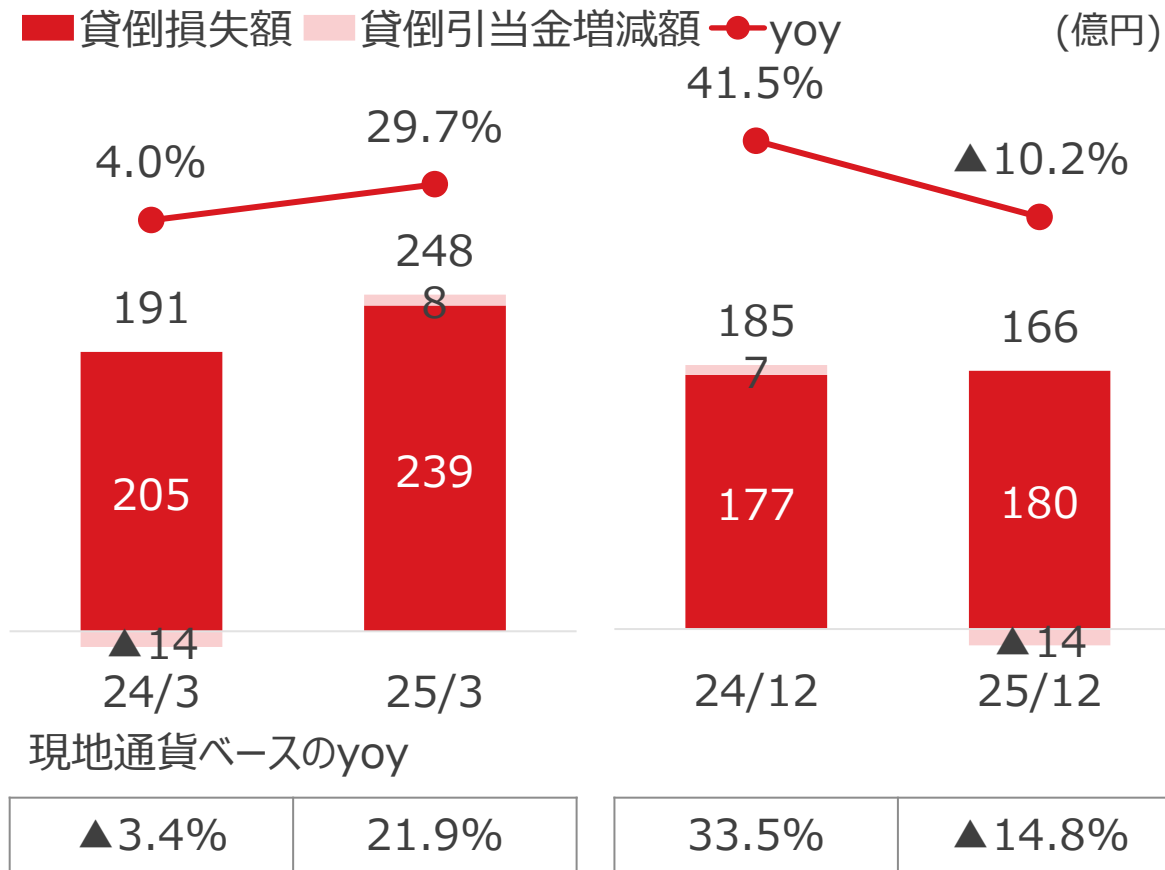
# Q 貸倒関連費用

- 貸倒関連費用(連結)は、前年同期比 + 2.0%の810億円
- EASY BUYの貸倒関連費用は、同 ▲10.2%の166億円

## ■ 貸倒関連費用(連結)



## ■ 貸倒関連費用(EASY BUY)



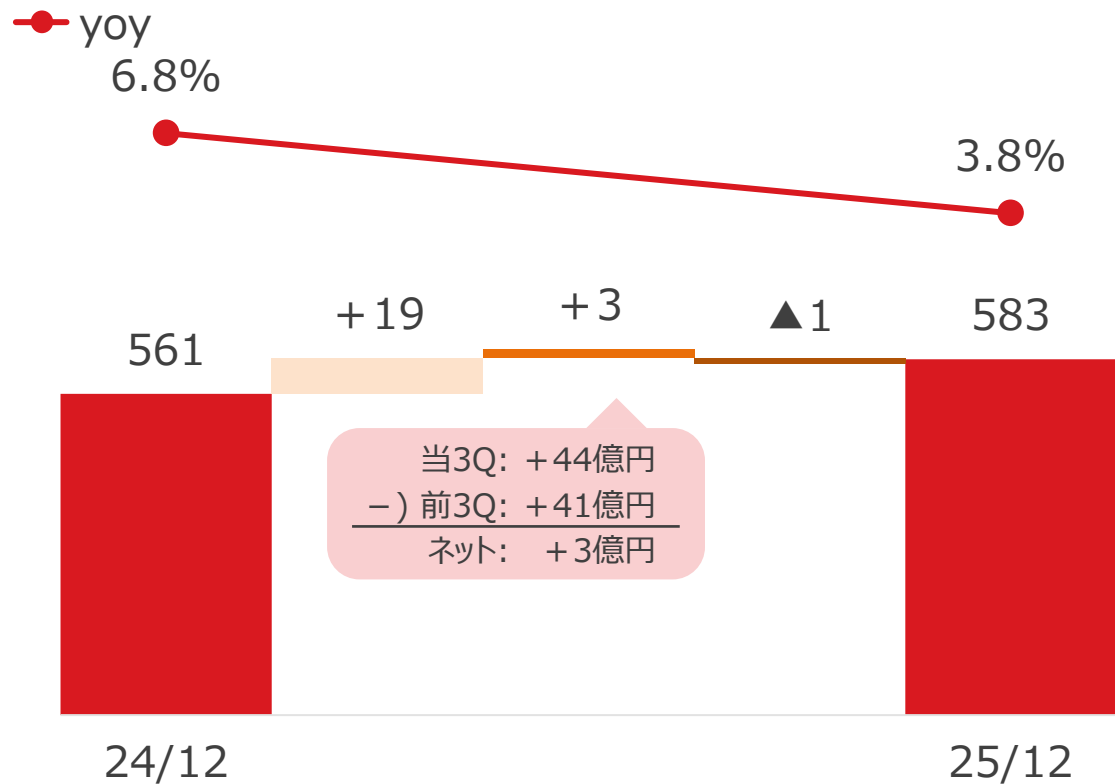
# Q 貸倒関連費用(アコム)

- 貸倒関連費用は、前年同期比 +3.8%の583億円
- 貸倒引当金は、業容拡大を主因に、前期末比 +44億円の768億円

## ■ 貸倒関連費用

(億円)

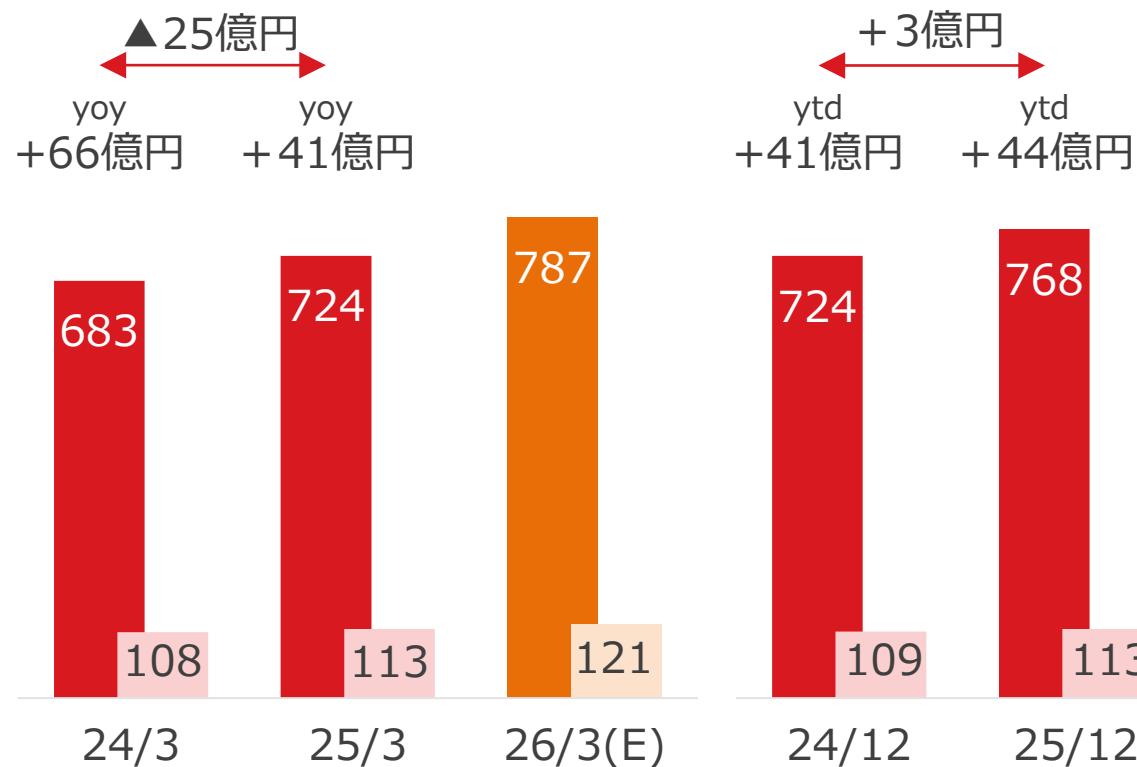
貸倒損失 貸倒引当金増減額 債務保証損失引当金増減額



## ■ 貸倒引当金・債務保証損失引当金

(億円)

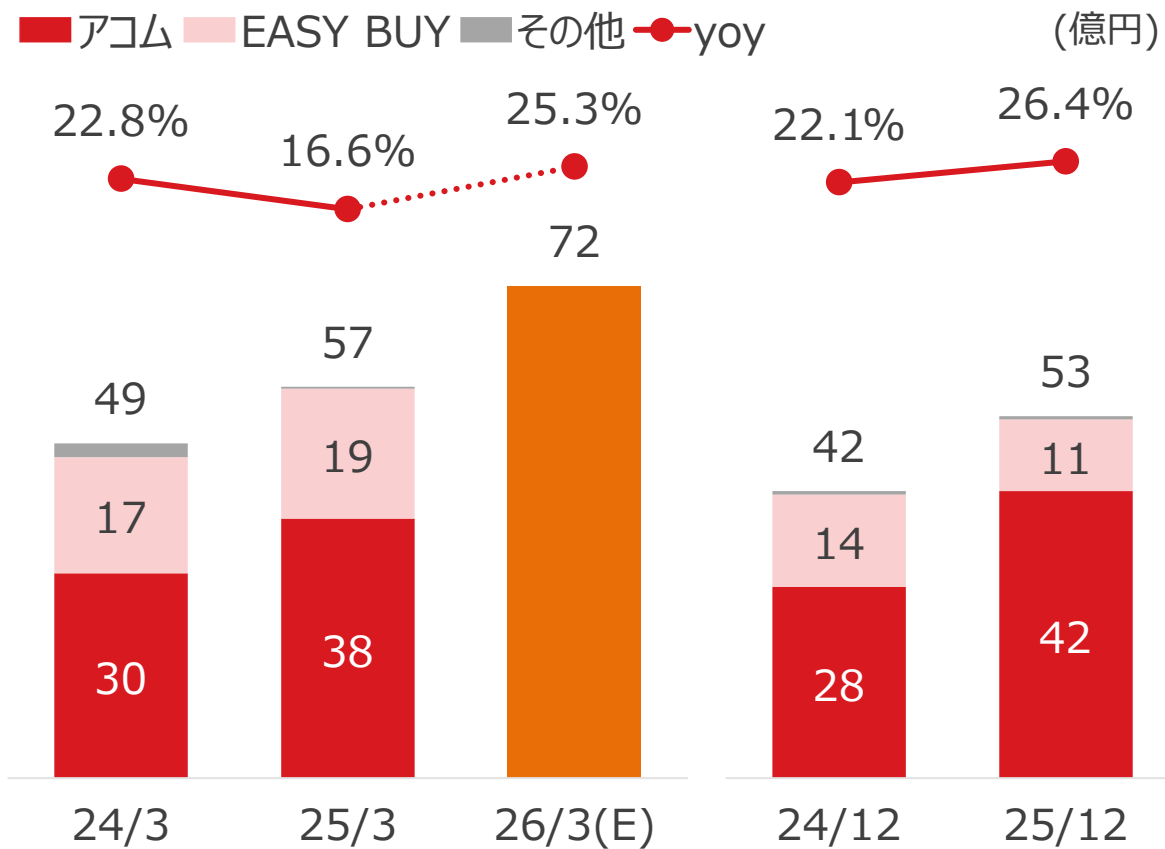
貸倒引当金 債務保証損失引当金



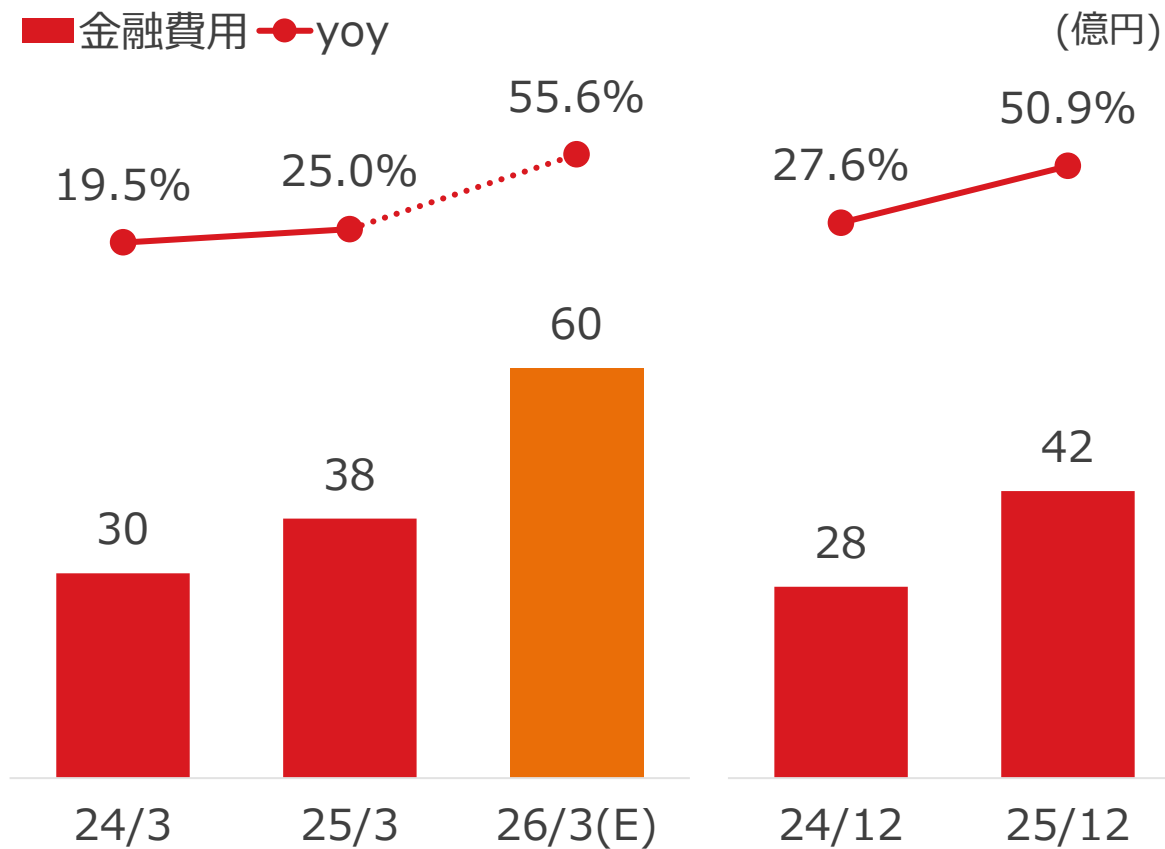
# 金融費用

- 金融費用(連結)は、前年同期比 + 26.4%の53億円
- 金融費用(アコム)は、同 + 50.9%の42億円

## 金融費用(連結)



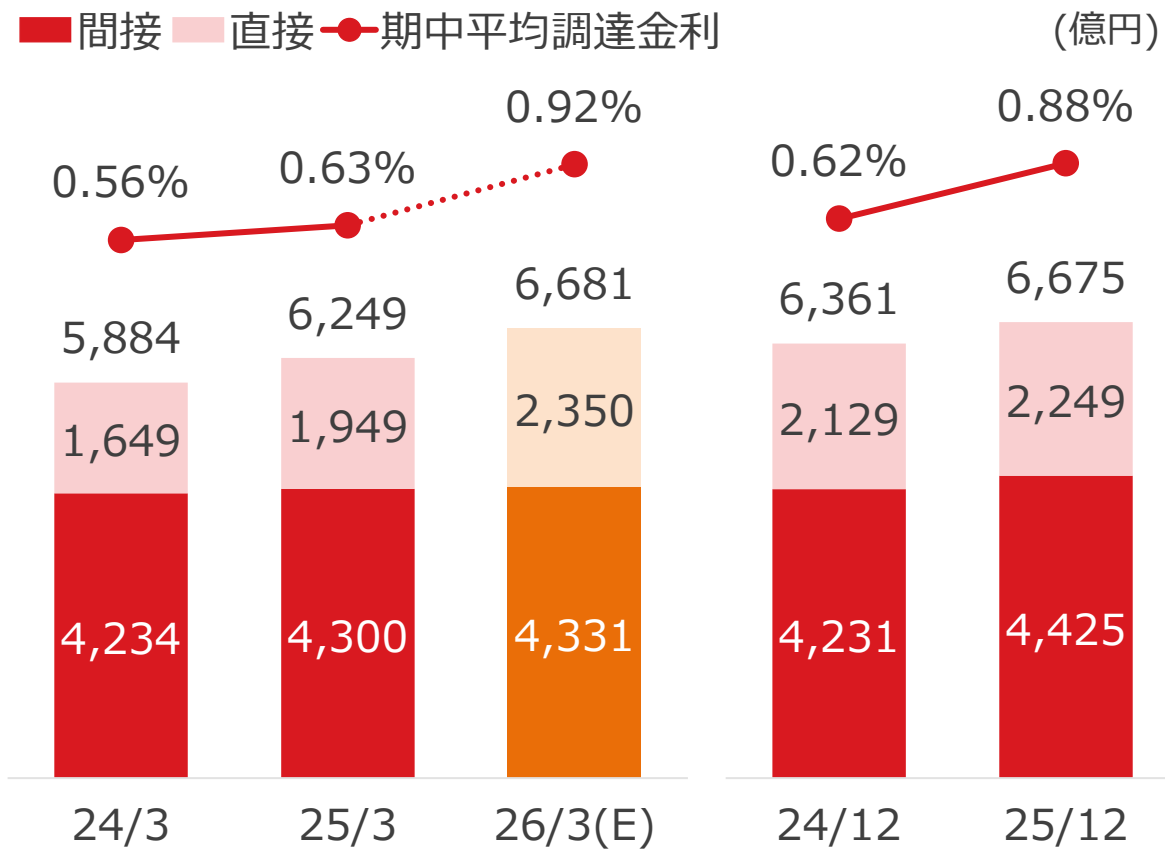
## 金融費用(アコム)



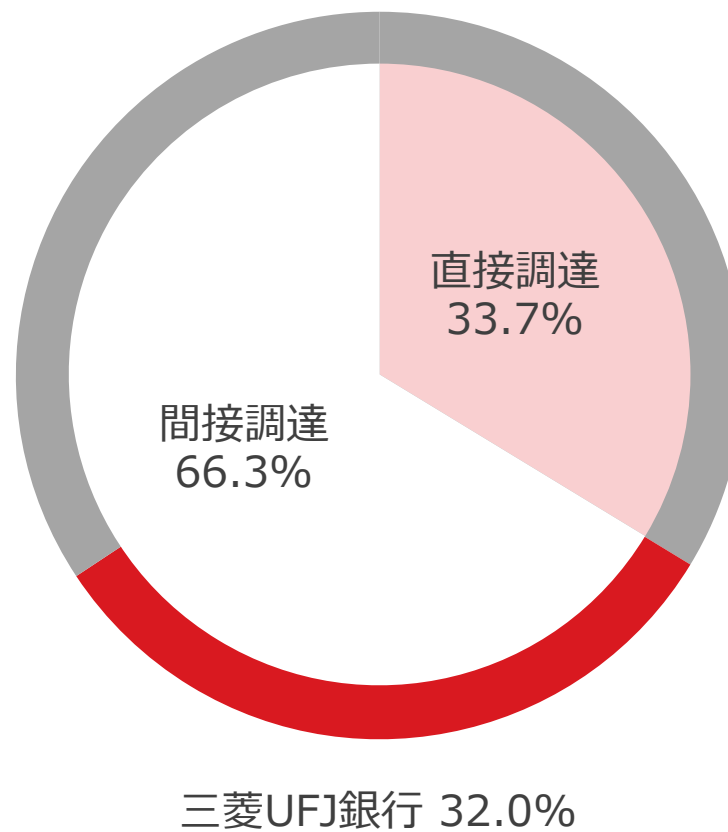
# 金融費用 | 資金調達残高(アコム)

- 資金調達残高は前年同期比 + 314億円の6,675億円
- 期中平均調達金利は、同+26bpsの0.88%

## ■ 資金調達残高



## ■ 借入先別構成比



固定金利比率  
79.6%

長期借入比率  
91.0%

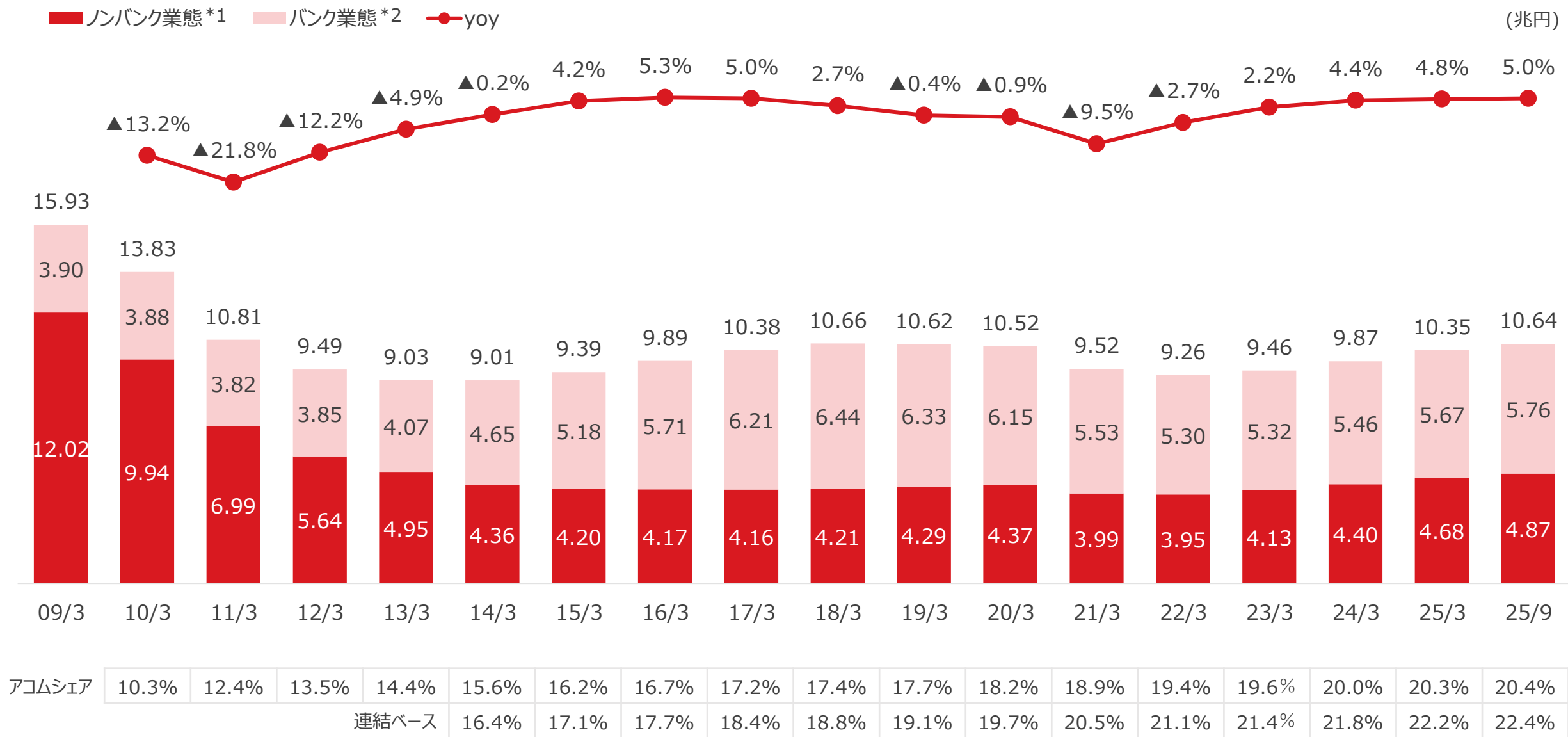
1年以内返済予定額  
2,929億円



# Appendix



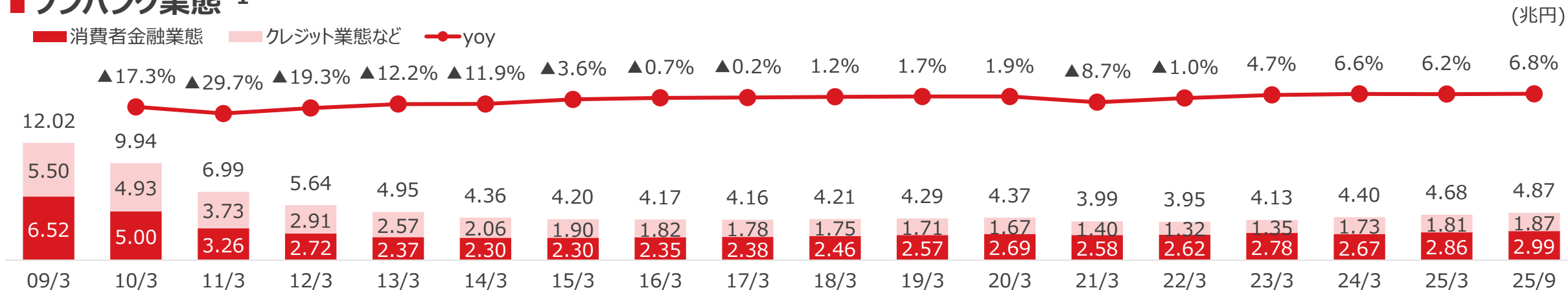
# 個人向けカードローン市場の規模推移



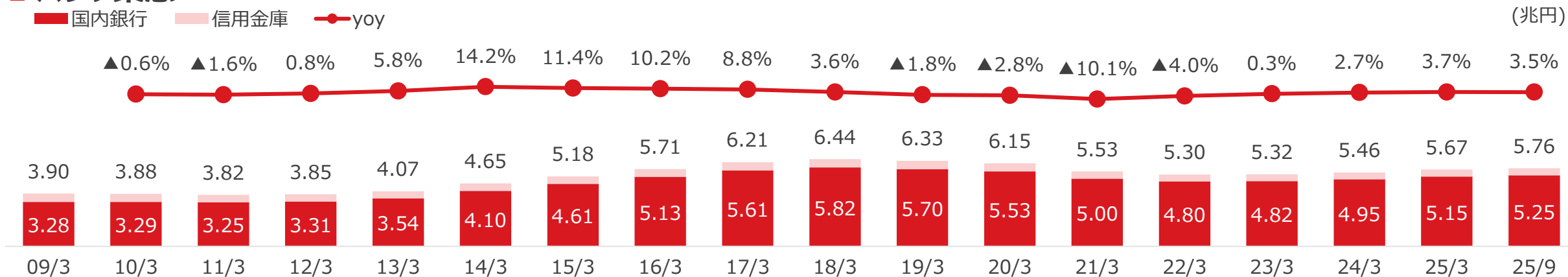
\*1 ノンバンク業態は日本貸金業協会統計の営業貸付金残高（証書貸付を含む）、2025年9月数値は速報値   \*2 バンク業態は日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高

# 業態別個人向けカードローン市場の規模推移

## ■ ノンバンク業態\*1



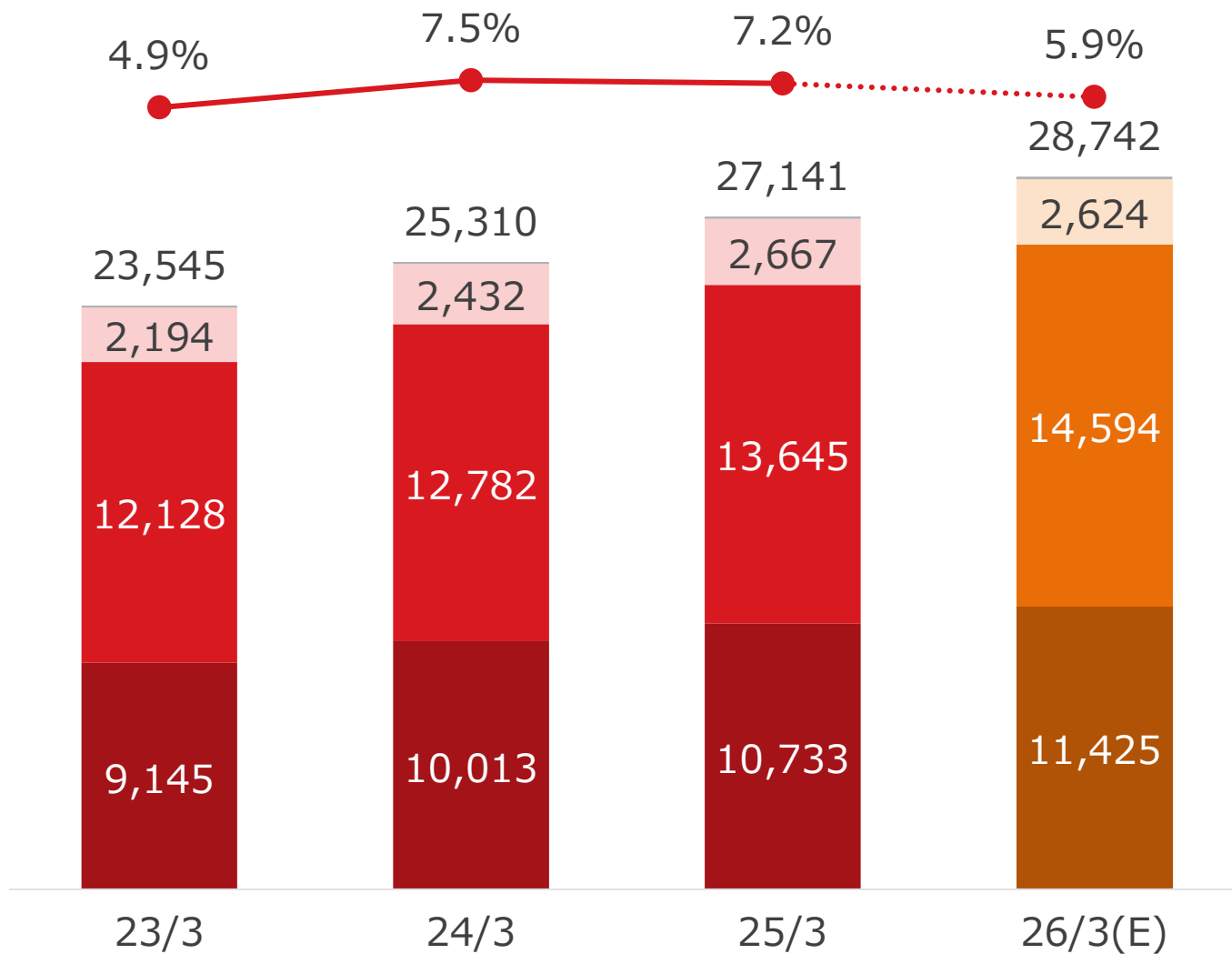
## ■ バンク業態\*2



\*1 ノンバンク業態は日本貸金業協会統計の営業貸付金残高（証書貸付を含む）、2025年9月数値は速報値 \*2 バンク業態は日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高

# 2026年3月期 通期計画(業容)

■ L・C事業 ■ 信用保証事業 ■ 海外金融事業 ■ その他 ● yoy (億円)



連結  
営業債権残高

**2兆8,742億円**  
(yoy + 5.9%)

ローン・クレジット  
カード事業

**1兆1,425億円**  
(yoy + 6.4%)

信用保証事業

**1兆4,594億円**  
(yoy + 7.0%)

海外金融事業

**2,624億円**  
(yoy ▲1.6%)

# 2026年3月期 通期計画(業績)

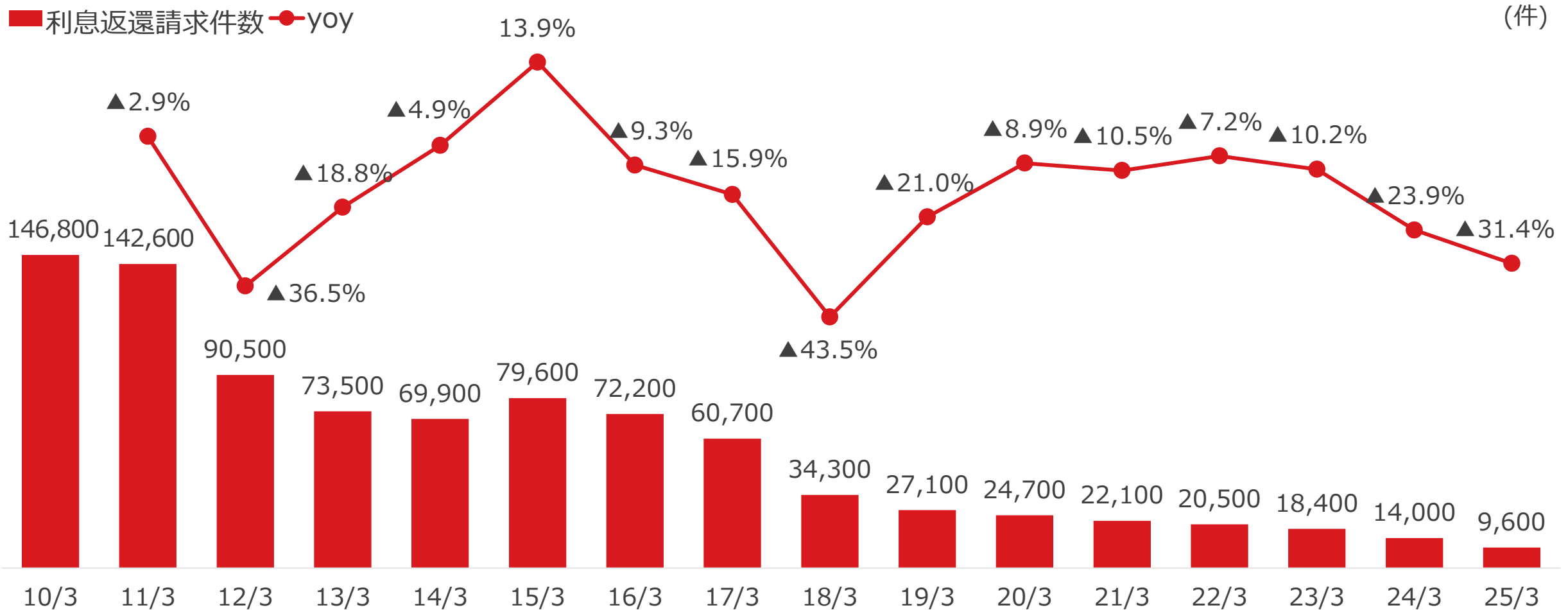
(百万円、%)

		2025/3	2026/3	
		実績	計画	yoy
				yoy
1	営業収益	317,742	331,800	4.4
2	ローン・クレジットカード事業	169,464	179,900	6.1
3	信用保証事業	76,332	80,800	5.9
4	海外金融事業	65,449	64,100	-2.0
5	営業費用	259,181	243,200	-6.2
6	金融費用	5,747	7,200	25.3
7	貸倒関連費用	105,676	111,800	5.8
8	利息返還費用	40,033	8,300	79.3
9	その他の営業費用	107,723	115,900	7.6
10	営業利益	58,561	88,600	51.3
11	経常利益	58,919	88,900	50.9
12	税金等調整前当期純利益	58,641	88,900	51.6
13	当期純利益	36,571	76,100	108.1
14	親会社株主に帰属する当期純利益	32,124	72,200	124.8



# 利息返還請求件数の推移

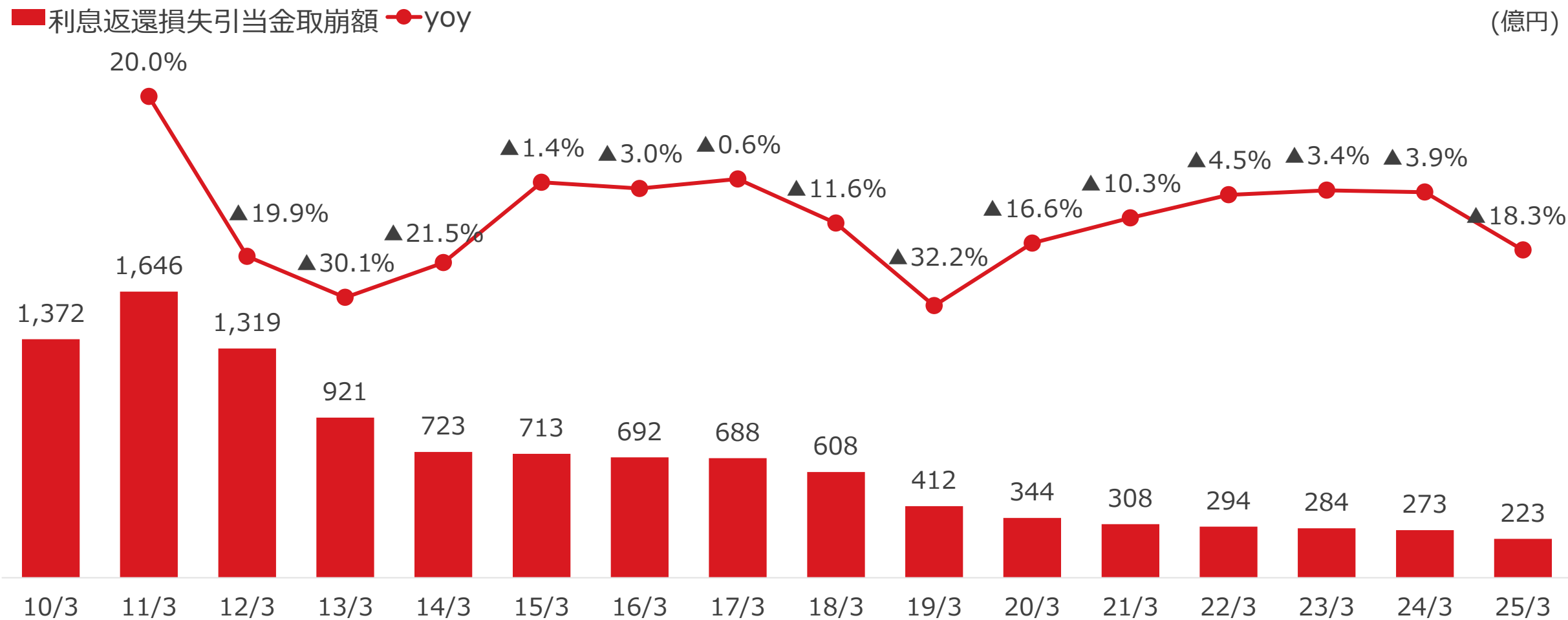
- 2025年3月期の請求件数は、前期比▲25%程度の予想に対して、▲31.4%の9,600件で着地
- 2026年3月期の請求件数は、前期比▲20%程度を予想



\* 利息返還請求件数は、弁護士・司法書士受任債権発生件数のうち、当社が利息制限法に基づいて再計算した結果、利息返還金が発生する件数（再受任分を含む）

# Q 利息返還損失の推移

- 2025年3月期の取崩額は、前期比▲15%程度の予想に対して、▲18.3%の223億円で着地
- 2026年3月期の取崩額は前期比▲25%程度を予想

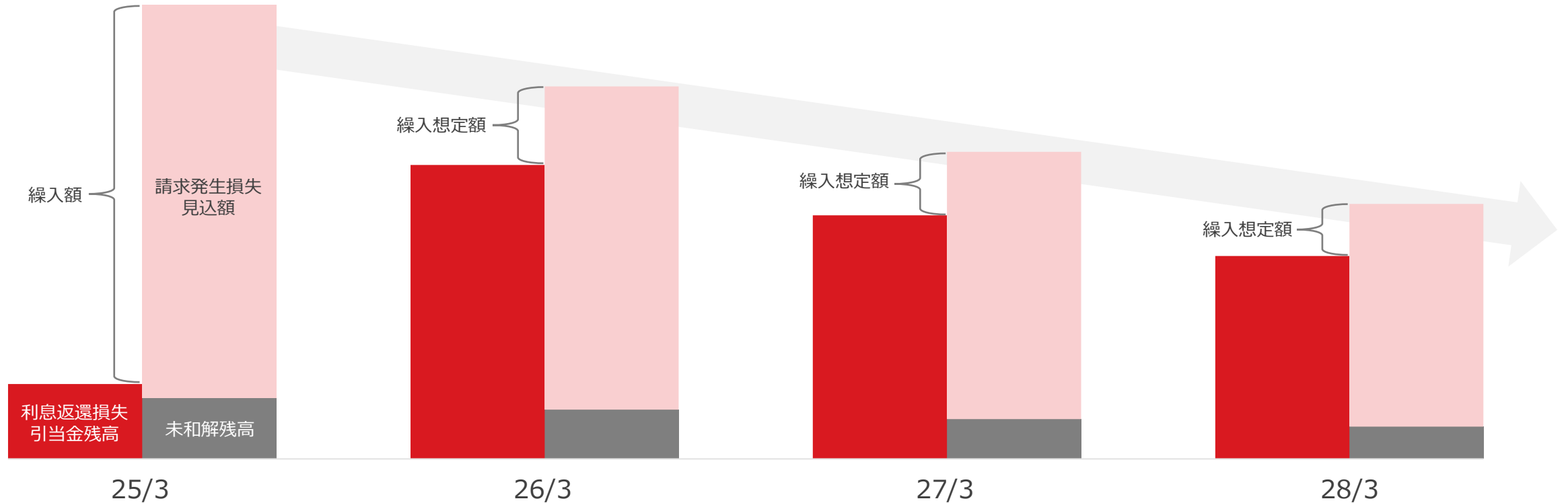




# 利息返還損失引当金の評価方法

## 利息返還損失引当金の評価方法

- 請求発生損失見込額の再評価は、**毎期末**に実施する
- 繰入想定額は、業績予想及び中期経営計画に**織り込んで公表**する

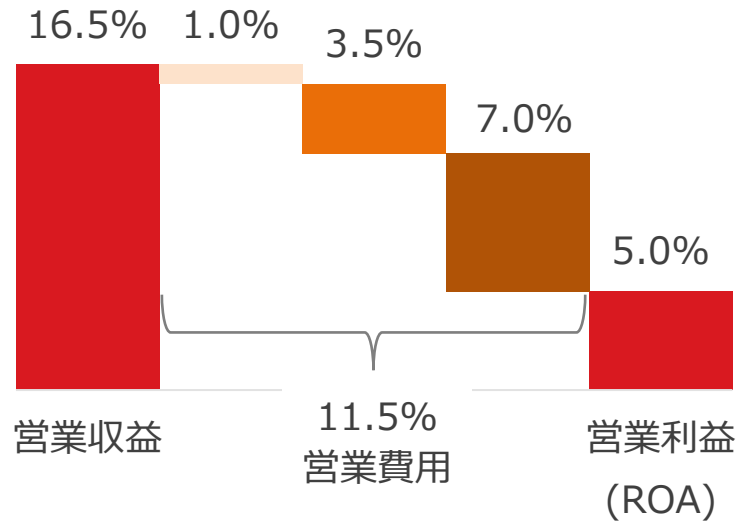




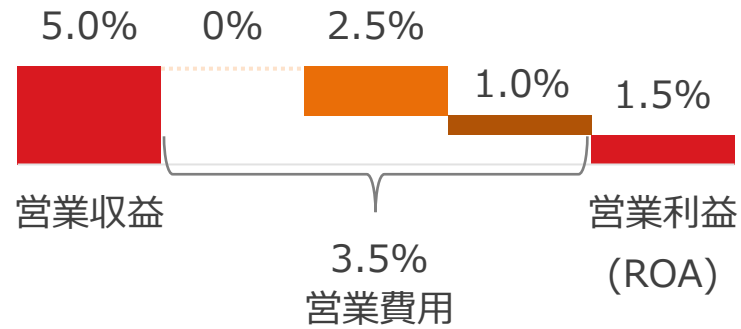
# 事業別営業債権残高営業利益率（ROA）の目安

## ■ ローン・クレジットカード事業

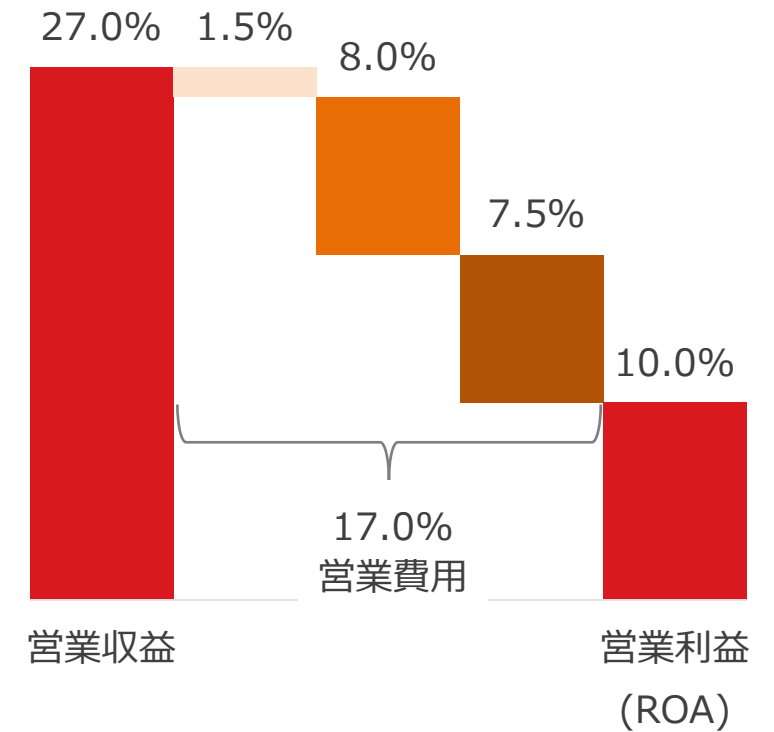
■ 金融費用 ■ 貸倒関連費用 ■ その他の営業費用



## ■ 信用保証事業



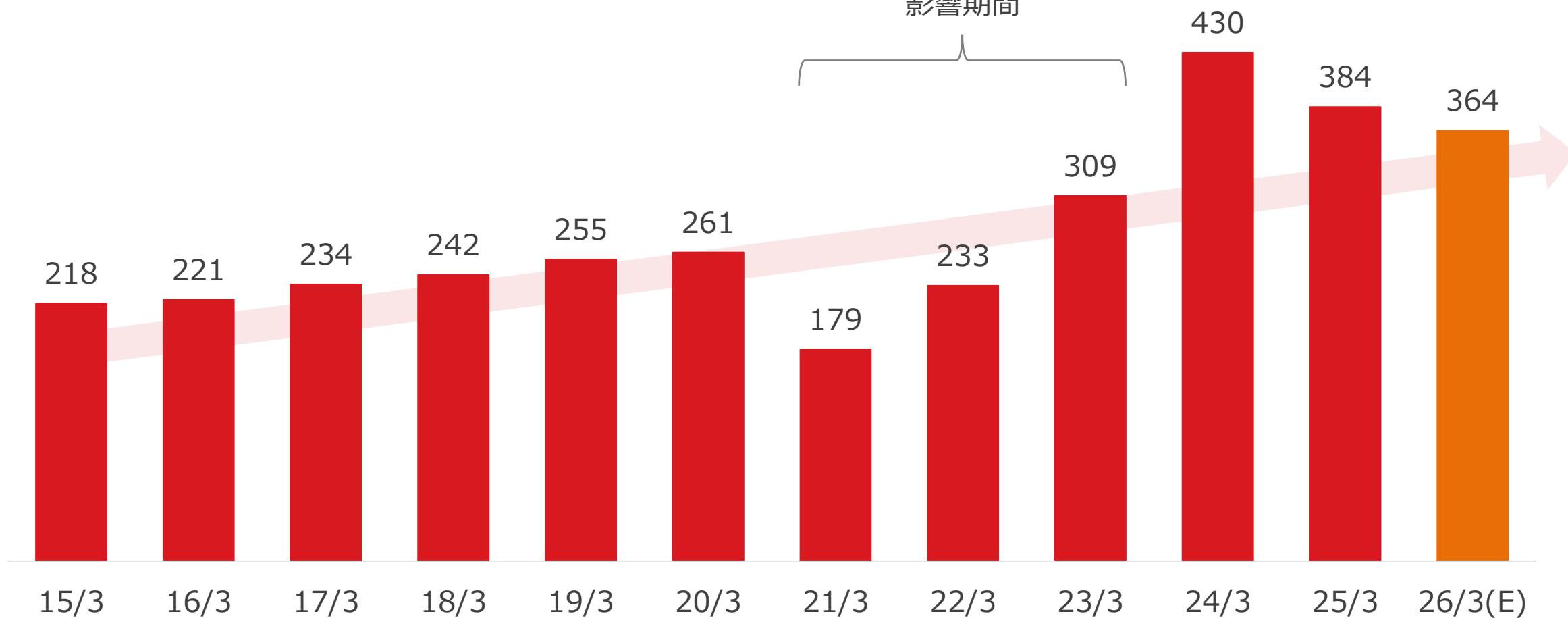
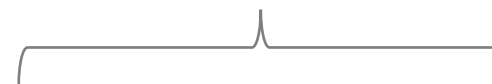
## ■ 海外金融事業



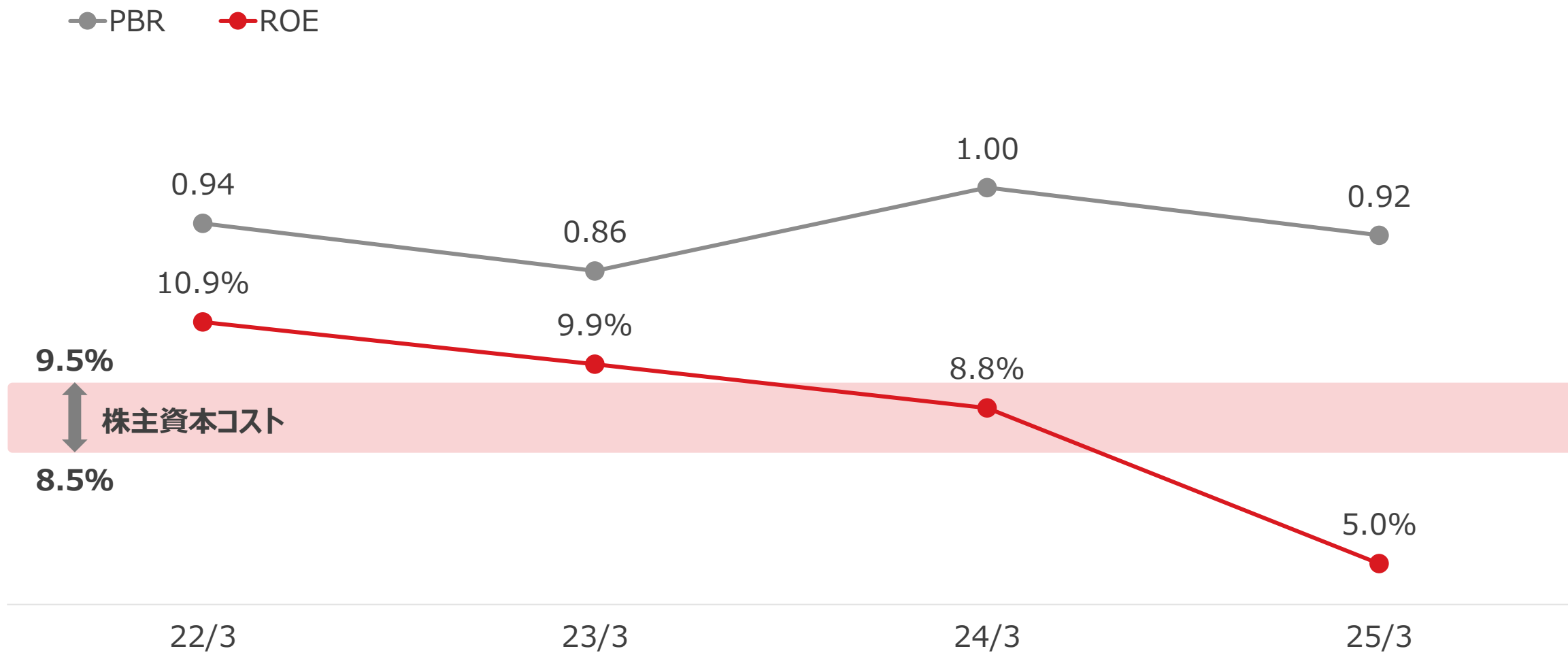
# 新客数の推移

(千件)

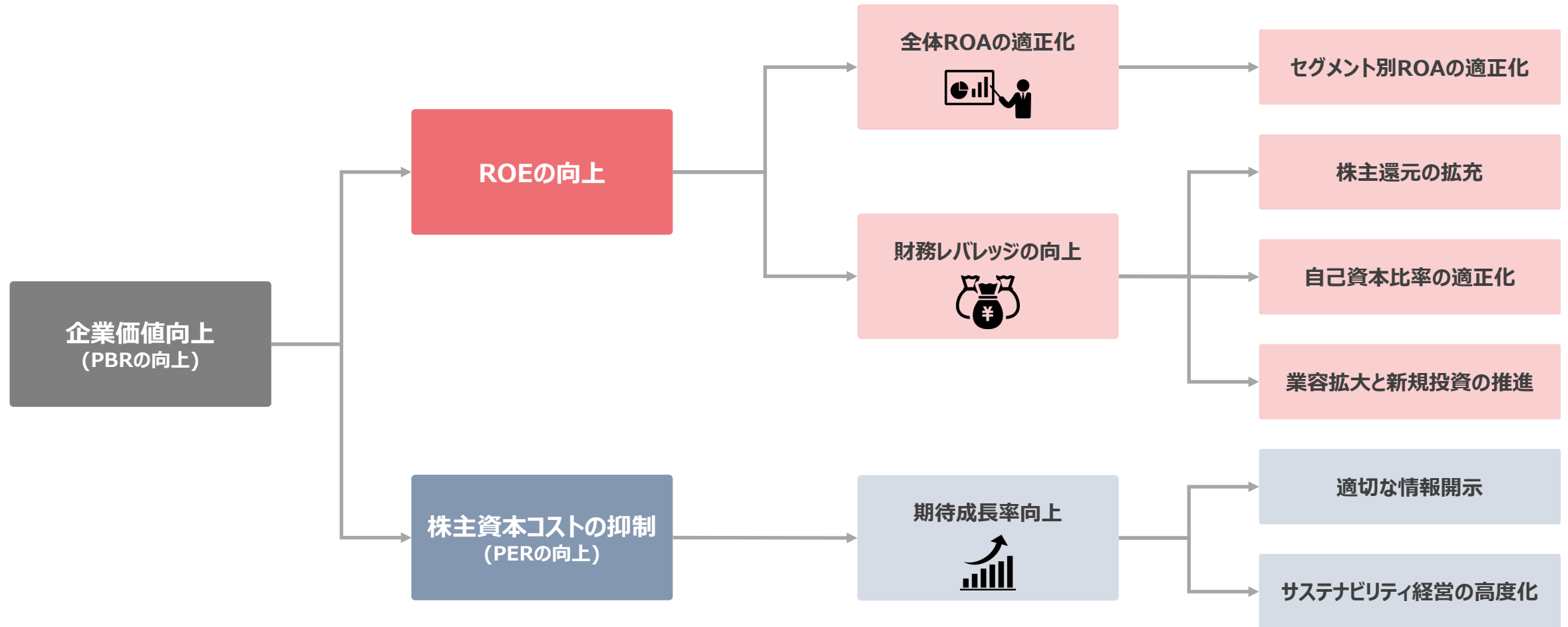
新型コロナウイルス感染症の  
影響期間



# PBR・ROEの推移



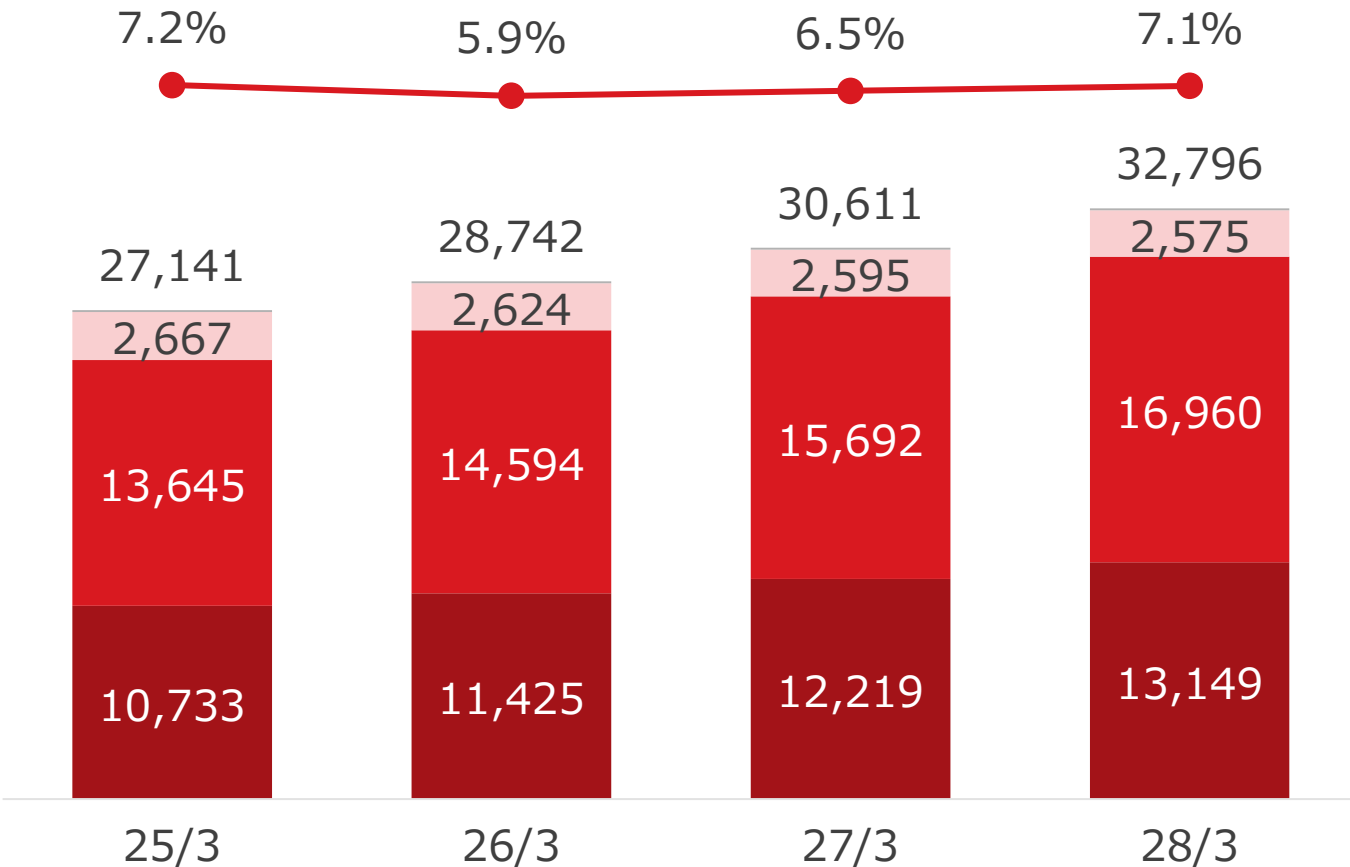
# 企業価値向上ロジックツリー



# 中期経営計画 | 業容

- ペントアップ需要が縮小する中、ブランド力の向上や、新規保証提携の推進などにより、ローン・クレジットカード事業及び信用保証事業の業容を着実に拡大させ、中計3ヶ年で1.2倍の3.2兆円を目指す

■ L・C事業 ■ 信用保証事業 ■ 海外金融事業 ■ その他 ● yoy (億円)



連結  
営業債権残高

**3兆2,796億円**  
(CAGR 5.9%)

ローン・クレジット  
カード事業

**1兆3,149億円**  
(CAGR 7.0%)

信用保証事業

**1兆6,960億円**  
(CAGR 7.5%)

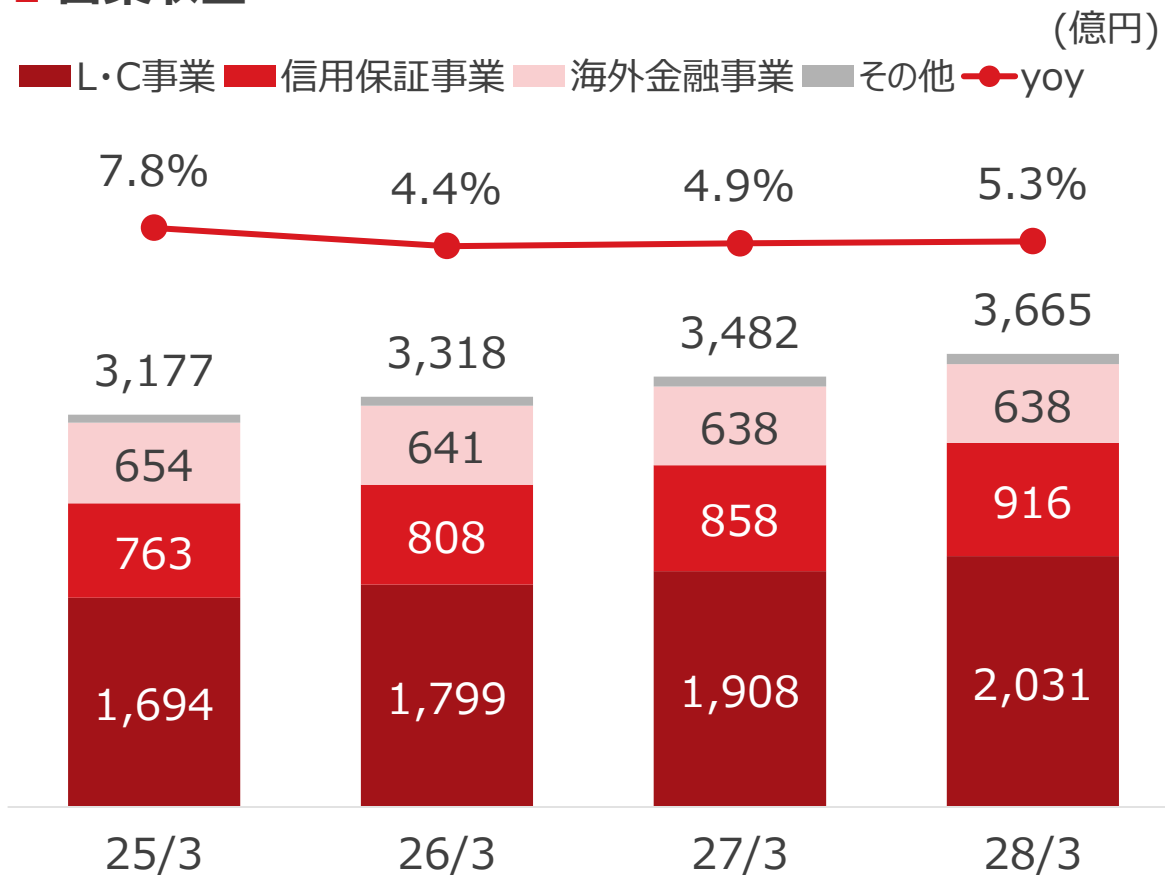
海外金融事業

**2,575億円**  
(CAGR ▲1.2%)

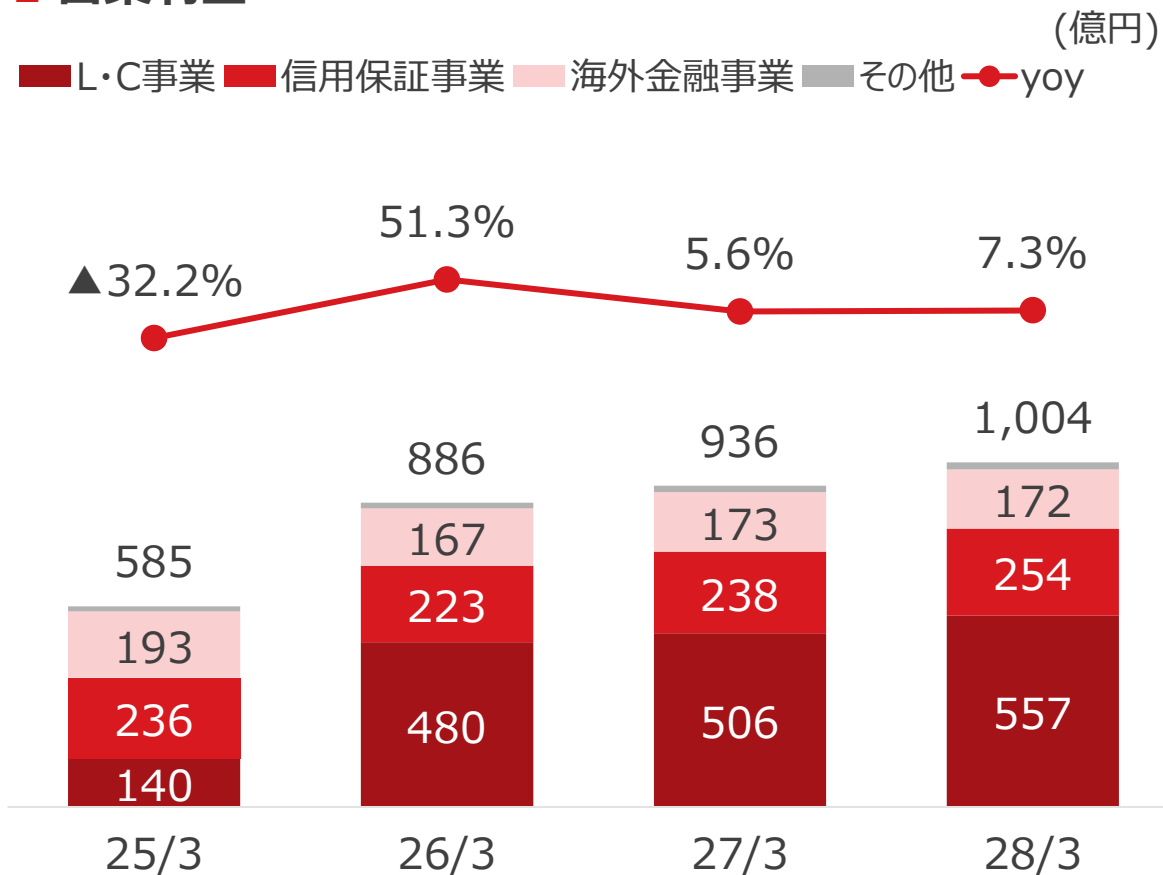
# Q 中期経営計画 | 業績

- 業容拡大にともない、営業収益は順調に増加する見込み
- 営業利益は、3期連続の増益を目指す

## ■ 営業収益



## ■ 営業利益

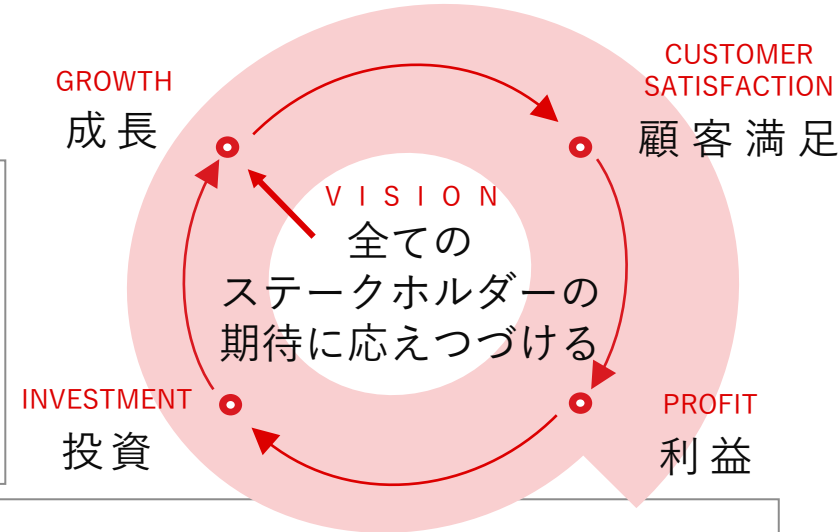




# 中期重点テーマ(2026年3月期～2028年3月期)

中期方針

## ビジョン達成に向け、成長サイクルのスピードを上げる



全ての土台

- コンプライアンス・カルチャーの醸成

### 事業戦略

- パーセプション\*の再構築によるブランド力向上
- 応対力と審査スピードの向上による良質な顧客体験の提供
- GeNiEの業務提携先の拡大
- 既存保証提携先との連携強化および新規保証提携先の拡大
- アイ・アール債権回収とのグループ連携強化
- EASY BUY（タイ）における法規制への適切な対応と良質なポートフォリオの維持
- ACF(フィリピン)、ACM(マレーシア)の早期収益化
- 新たな国への事業進出
- 新規事業創出への挑戦

### 機能戦略

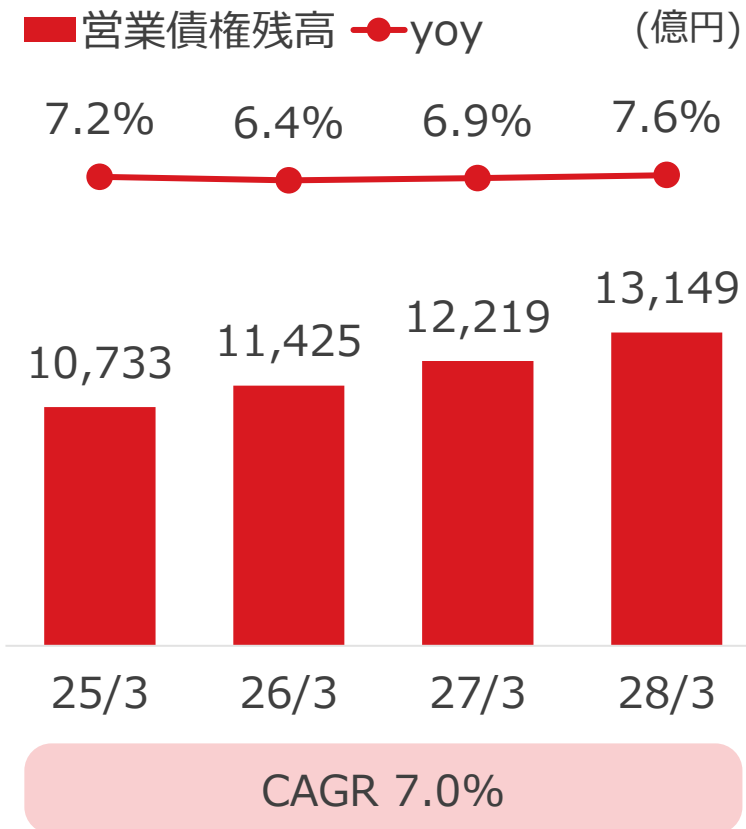
- 環境変化に柔軟かつ迅速に対応できるシステム基盤の構築とサイバーセキュリティの強化
- 採用・育成・定着の強化による人材基盤の確立
- 最適与信の提供と債権保全体制の再構築
- サステナビリティ経営の確立に向けた社内浸透の強化
- リスク管理の高度化とガバナンスの強化
- 業務効率化による生産性の高い業務環境の構築
- 最適な資金調達による安定性維持とコスト効率向上
- データ利活用による意思決定スピードと精度の向上
- 新たな行動指針の実践

\* パーセプションとは、消費者のイメージや購買決定要因となる企業やブランドの認識・認知、知覚

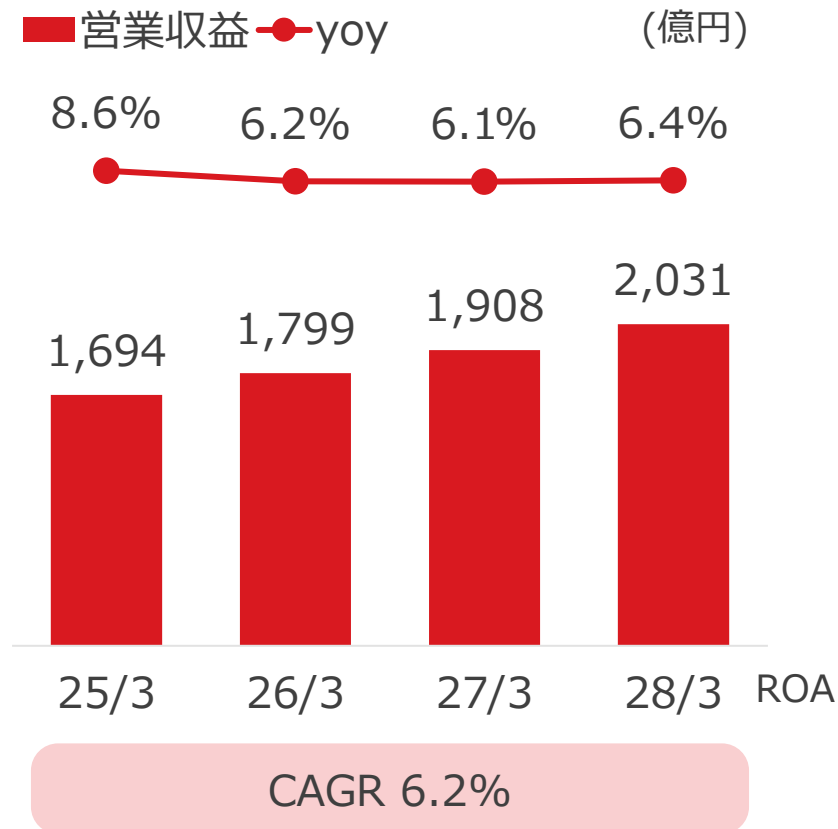
# Q 中期経営計画 | 事業別業容・業績(L・C事業)

- アコム : 各種営業施策の推進や、ブランド力の向上、良質な顧客体験の提供に注力
- GeNiE : 業務提携先の拡大に注力し、エンベデッド・ファイナンス市場におけるリーダーポジションを目指す
- エンベデッド・ファイナンスを含めた営業債権残高は1.3兆円を目指す

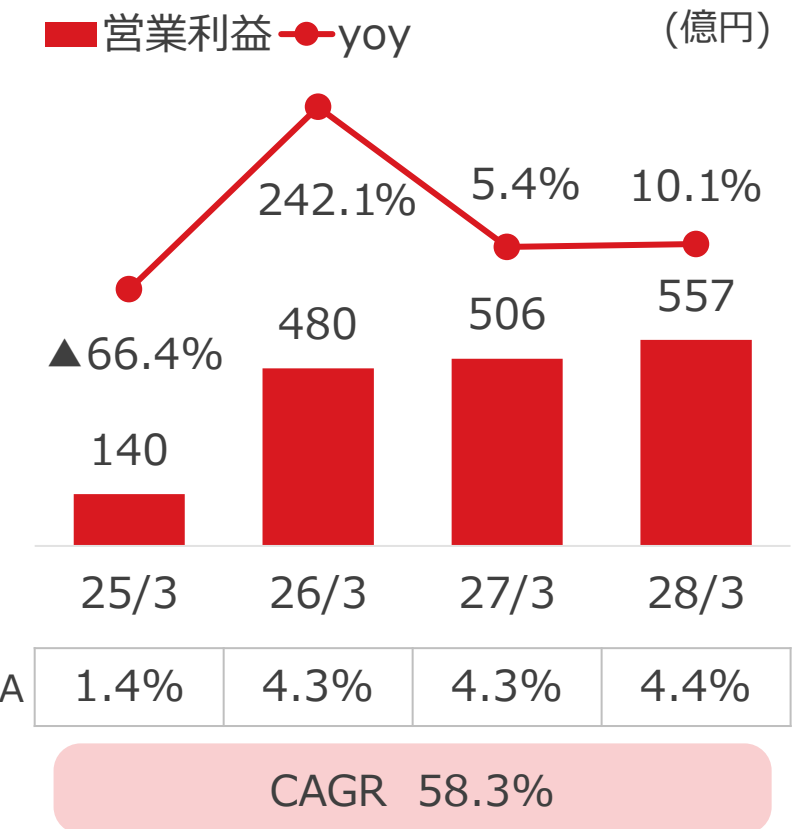
## ■ 営業債権残高



## ■ 営業収益



## ■ 営業利益

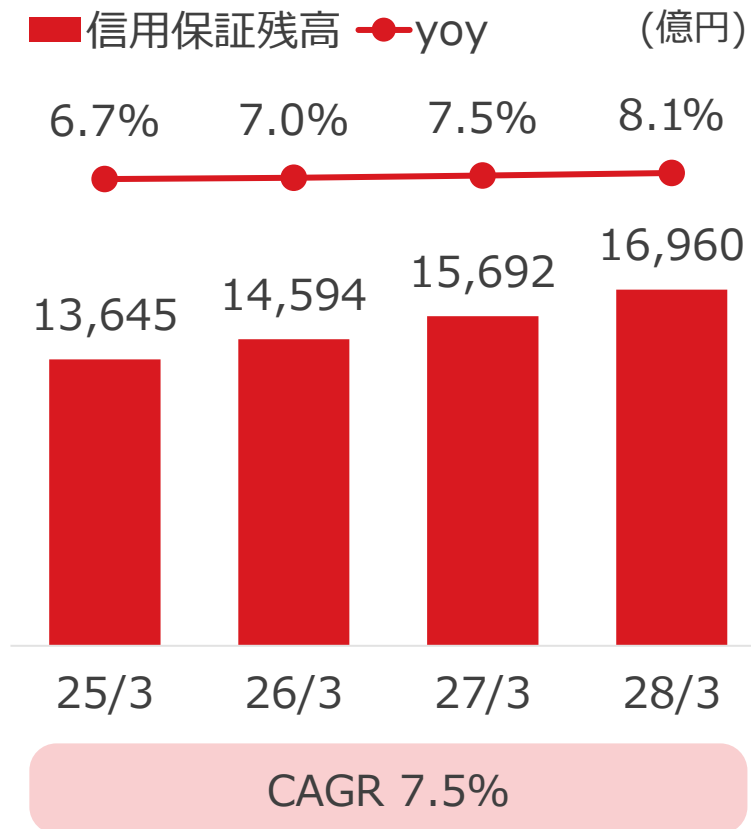




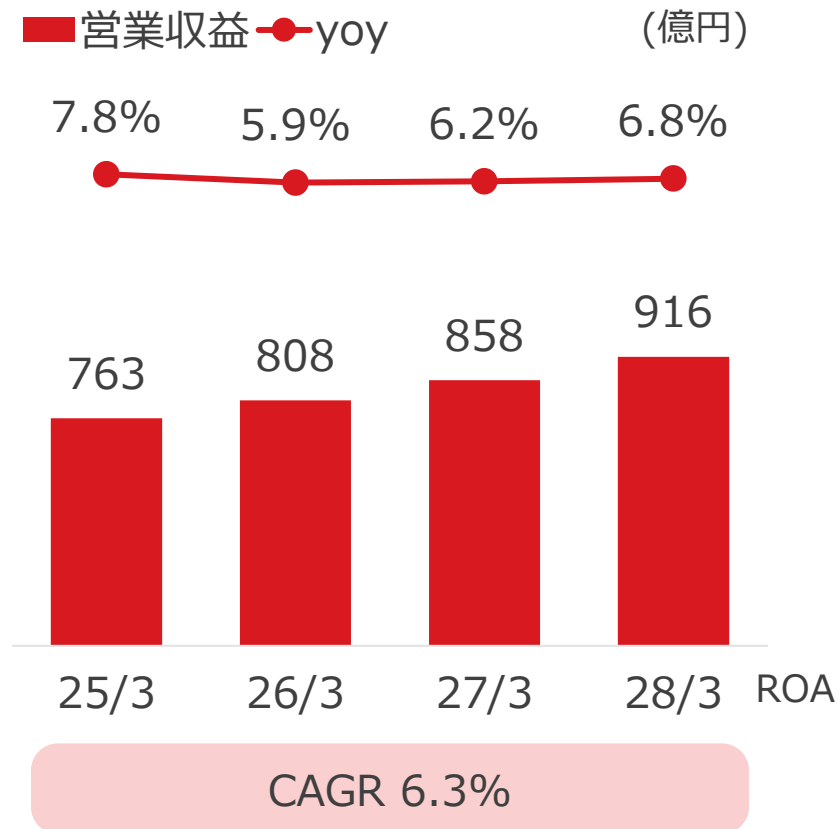
# Q 中期経営計画 | 事業別業容・業績(信用保証事業)

- 新規保証提携先の拡大による業容拡大、既存提携先との関係性強化に注力
- 連結信用保証残高は1.6兆円を目指す

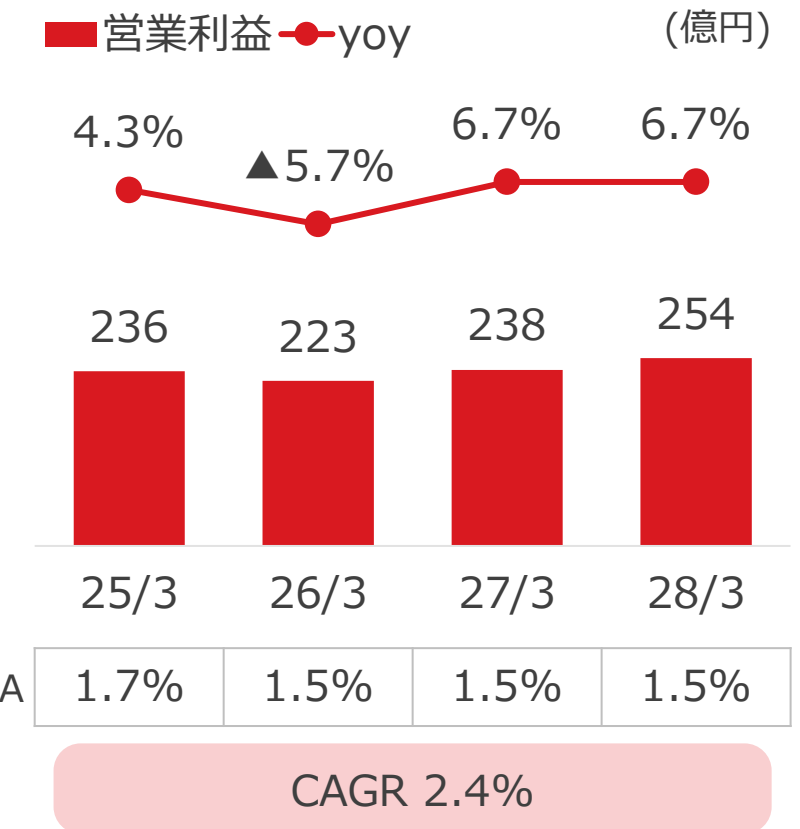
## ■ 信用保証残高



## ■ 営業収益



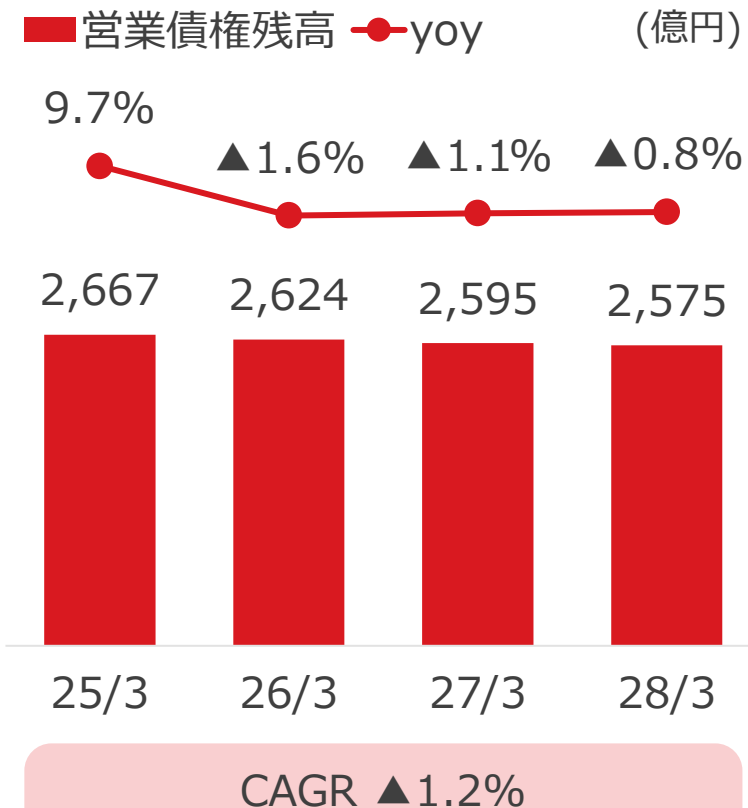
## ■ 営業利益



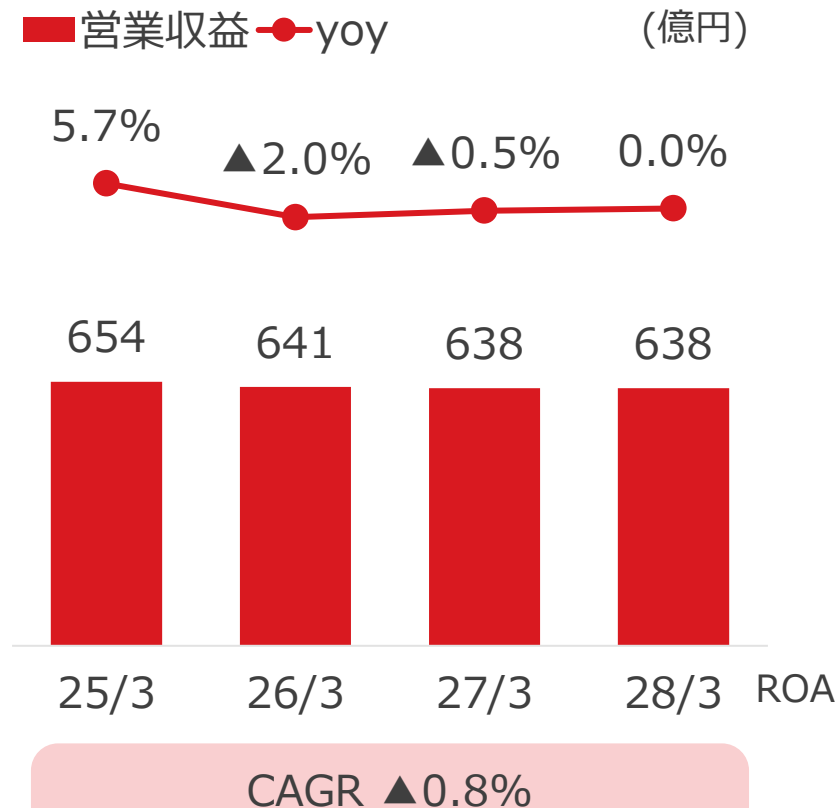
# Q 中期経営計画 | 事業別業容・業績(海外金融事業)

- ACF (フィリピン共和国) : 新規獲得の強化や、追加融資に注力し、中計最終年度での収益化を目指す
- ACM (マレーシア) : 集客エリアの拡大と、与信モデルの高度化により、中計最終年度での収益化を目指す

## ■ 営業債権残高



## ■ 営業収益



## ■ 営業利益

